ソフトウェアレファレンス

Flextight スキャナー用 FlexColor 4.0

ハッセルブラッド・イマコン編

ソフトウェアリファレンス - Flextight スキャナー用Flextight 4.0、品番70030047、第1.0版.

本マニュアルに含まれる情報は参照目的でのみ書かれたもので、事前の通告なしに変更されることがあり、Hasselblad A/S社が責任を負うものではありません。
Hasselblad A/S社は、本書に掲載される可能性のある、いかなる誤りあるいは不的確性に関しても一切の責任を負いません。

Hasselblad A/Sは、Hasselbladソフトウェア製品の使用中または使用した結果発生した損失または損害に関して一切の責任を負いません。

Printed in Denmark.

目次

はじめに

本書に含まれる内容

本書では、各メニューおよび画面について、FlexColorで利用可能な制御および設定を説明しています。

説明するトピック:

- すべてのメニューコマンドの要約
- 3fファイル形式の説明
- 画像の回転および左右反転に関する情報
- **サムネイル**ウィンドウからの画像管理
- **セットアップ**ウィンドウのすべてのタブシートに関する詳細な説明
- **環境設定**ウィンドウに関する詳細な説明
- ColorSync™プロファイルの編集に関する説明
- **グラデーション**ウィンドウにおける明るさとコントラストの制御
- 色のニュートラル化と制御など、ヒストグラムウィンドウにおけるハイライトとシャドウの高度な設定
- **色補正**ウィンドウでの高度な色制御
- **テクスチャー**ウィンドウでの画像鮮鋭化、ごみや傷の除去
- 複数の切り取り、設定の組合せから個別画像ファイルを作成するバッチスキャン

ソフトウェア互換性

FlexColorソフトウェアは、Flextight 4800を除くFlextightスキャナーの全機種、およびHasselblad/Imaconカメラとカメラバックすべてと互換性があります。

Mac OSおよびWindows環境下でのFlexColor

スキャナーに同梱のCDには、MacintoshとWindowsベースのＰＣ用のFlexColorバージョンが含まれています。どちらのプラットフォームでもインターフェースはほぼ同じです。 若干表面的な違いはありますが、これは2つのシステムのインターフェースガイドラインが異なるためです。

本書記載のスクリーンキャプチャは、ほとんどがMac OS Xから取得されたものです。Windows環境では次の相違点があります。

- セットアップウィンドウでは、色管理タブがColorSync™の代わりにICMと呼ばれます。
- メニューは、画面最上部ではなく、メイン**FlexColor**ウィンドウの最上部に表示されます。

システム要件

IBM PC 互換機

- 最低Pentium III プロセッサ以上を推奨
- 2000またはXP
- システムRAM 512 MB以上を推奨
- 画面解像度800×600ピクセル、トゥルーカラー（24ビット）
- マウスまたは他のポインティングデバイス
- FireWireインターフェースあるいはSCSIインターフェース
- 利用可能なハードディスクの空き容量、最低10GB

Macintosh

- G4以上を推奨
- Mac OS Xバージョン10.2.1以降
- システムRAM 512 MB以上を推奨
- 画面解像度800×600ピクセル、トゥルーカラー（24ビット）
- FireWireインターフェースあるいはSCSIインターフェース
- 利用可能なハードディスクの空き容量、最低10GB

OS X 要件

OS X V 10.2.1以降が必要です。最新バージョンへの更新を推奨します。

デバイスは、SCSIでもFireWireでも接続可能です。SCSIデバイスをSCSI-FireWire変換アダプタを通して接続している場合、そのデバイスはFireWireデバイスとして表わされるので、注意してください – すなわち、デバイスウィンドウでのバス番号は9となります。

OS Xに認識されるようにするには、Mac起動時、標準SCSIアダプタに接続されたデバイスが存在しなければなりません。SCSI経由でFireWireアダプタに接続されたSCSIデバイスは、アダプタがプラグ接続された時点で認識されます。SCSIデバイス自体は、アダプタをFireWireに接続する前、または再起動前に、電源をオンにする必要があります。OS Xではアプリケーションに必要なメモリーは自動的に配分されています。

管理者以外のユーザーのサポート

ユーザー定義の設定、バッチプリセット、および様々な補正ファイルは、書込サポートの補償される<ユーザーホーム>/ライブラリ/アプリケーションサポート/FlexColor にあります。標準設定はアプリケーションパッケージ内にあるので、標準設定へのアクセスを失うことなく、FlexColorアプリケーションを任意の場所に移動することができます。

環境設定ファイル

FlexColorは環境設定ファイルにOS X標準ファイル形式を使用しています。

ファイル名はdk.Hasselblad.FlexColor.plist.です。

3f ファイル形式

3fでスキャン機能を（スキャナー用に）使う場合、またはデジタルカメラバックで画像をキャプチャする場合、FlexColorは画像をHasselblad独自の3f (flexible file format) 形式で保存します。

この3fファイルは、以下を含む拡張TIFFファイルです。
- 未加工16ビット画像データ
- 適用された設定の全履歴
- 高品質なプレビュー画像
- 画像データベースをサポートするメタデータ（IPTCタグを含む）

つまりこれは、画像をスキャンまたはキャプチャした場合、この画像を切り取り、サイズ変更、および色補正できる回数には制限がないということを意味しています。同じ3Fファイルを使って、データベースへの統合が容易に行え、多数のアプリケーションで高速にプレビューができ、必要な品質のものがいつでも得られるのです。

画像のアーカイブと可用性

3fファイルはスキャナーまたはカメラで捕らえた詳細な情報をすべて保存できるため、アーカイブ用途に理想的です。アーカイブ後は、案件ごとにFlexColor内の3f画像を使って、エクスポートにより（以前の設定が適用された）新しいTIFFファイルを作成します。この場合、基になる3fファイルに加えられる変更は、使用した設定に関する新しい履歴記録のみとなります。

3fファイルをネットワークで利用可能にすることにより、直接スキャナーまたはカメラで作業をしているのと同じ状態で、どのワークステーションからもFlexColorで画像を開いて、切り取り、修正、および変換が行えるようになります。

3f ファイルの編集

FlexColorには、3fファイルに標準的な画像修正を行うために必要なツールがすべて備えられています。

画像をピクセル編集する必要がある場合、FlexColorはPhotoshop用の特殊プラグインを用意しています。FlexColorをインストールする際、Photoshopがすでにインストールされていると、このプラグインは適切なプラグインフォルダにインストールされます。このプラグインを使用すると、オリジナルのスキャナーデータまたはキャプチャデータが永久に変更されることに注意してください。他の画像編集アプリケーションまたはDTPアプリケーションで3fファイルを使用するには、必要な設定を適用したのち、TIFFファイルとして保存する必要があります。TIFFは、ほとんどの画像用およびDTP用プログラムでサポートされている標準形式です。

IPTC タグ

国際新聞通信委員会（IPTC）では、画像を含むニュースコンテンツのメタ情報を交換するため、出版業界で使用すべき標準規格を定義しています。この規格により、オブジェクトとその説明が同一のファイル内で関連付けられます。表題、撮影場所、日付、そしてキーワードやカテゴリーに至るまで、画像にはあらゆる種類の情報を埋め込むことができます。FlexColorでは、数多くのIPTCタグを3fファイルに適用できます。詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。

IPTC規格を使うことにより、画像管理の多くの作業が容易になります。これを行うためのソフトウェアプログラムは、Adobe Photoshopなど、すでに多数存在します。IPTC規格は、世界中の専門報道機関が使用しているだけでなく、他のユーザにとっても同様に有用な標準規格です。

FlexColor メニュー

FlexColorコマンドは、標準メニューバーから利用できます。以下に、各コマンドを簡単に説明します。大部分のメニューエントリは、その右側にキーボードショートカットも表示されます。作業時間の短縮に役立つため、これらのショートカットの使用をお勧めします。

FlexColor メニュー

環境設定コマンドを除き、**FlexColor**メニューの機能はすべてのアプリケーションに標準のものです。

- 環境設定: 環境設定ウィンドウを開きます。 このウィンドウでは、最終スキャンを見るアプリケーションの選択、省力設定の指定、最終画像を表示するアプリケーションの選択、3fファイルのデフォルト情報の入力を行うことができます。

  詳細は53ページの「環境設定ウィンドウ」を参照してください。

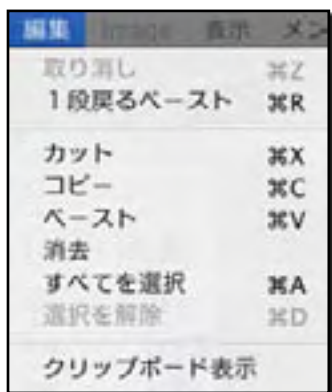
ファイルメニュー

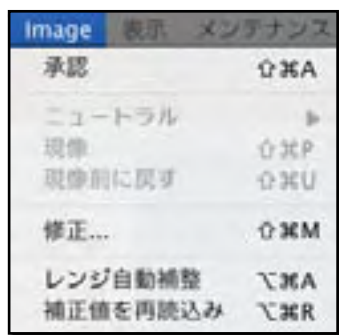
ファイルメニューには、FlexColor用のスキャンを開始し、設定を行うためのエントリが含まれています。

- **スキャンプレビュー：**低解像度のプレビュースキャンを取得します。プレビュー画像はメイン**FlexColor**ウィンドウに表示され、設定のプレビューや最終スキャン用に画像の切り取りを行うことができます。設定はすべて最大14ビットの色深度でプレビューされ、結果が表示されます。
- **スキャン 3f：**画像をスキャンし3fファイルとして保存します。切り取り、解像度、IPTC情報などの様々な設定は、この機能の選択時にポップアップ表示されるウィンドウで設定します。詳細は118ページを参照してください。
- **最終スキャン/保存：**最終スキャンエントリはプレビュースキャンから最終解像度スキャンを取得し、ハードディスクにTIFFファイルとして保存します。画像を 3f ファイルとしてスキャンすると（詳細は10ページを参照）、エントリが保存に変わり、FlexColorウィンドウに現在表示されている画像を標準TIFFファイルとして保存します。いずれの場合も、保存される画像には、切り取り、モード、色、および画像処理の現在の設定が適用されます。
- **閉じる：**可能な場合、現在選択されているウィンドウを閉じます。

- **セットアップ：セットアップ**ウィンドウを開きます。 このウィンドウで、スキャン用の基本設定の大部分を行い、保存し、ロードすることができます。詳細は35ページの「**セットアップ**ウィンドウ」を参照してください。
- **デバイス：**接続機種ウィンドウを開きます。このウィンドウは接続されたデバイスをすべてリストアップすることにより、使用したいカメラまたはスキャナーの選択を可能にします。希望するものを選択し、**選択**ボタンをクリックします。接続されたスキャナーまたはカメラが 1 台のみの場合は、このデバイスが自動的に選択されます。リスト内でスキャナーアイコンまたはカメラアイコンの右側にある番号（0-5など）は、バス番号（0）およびSCSIアドレス（5）を示しています。
- **情報をみる：情報**ウィンドウを開きます。このウィンドウには、現在選択している画像に関する各種情報が含まれています。詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。
- **用紙設定/印刷：サムネイル**ウィンドウの内容を印刷します。ウィンドウ内のサムネイルをクリックして必ず事前にビューを選択してから、**印刷**を選択してください。
- **ゴミ箱に入れる：現在選択している画像をゴミ箱に入れます。サムネイルウィンドウを使用している場合は、選択された画像がゴミ箱に移動します。**

編集メニュー

編集メニューには、FlexColorでの作業中に行った複数の操作を取り消すことができるエントリが含まれています。また、各種ウィンドウでテキストの切り取り、コピー、および貼り付けを行うこともできます。

- **取り消し：**最も最近行った操作、例えば**セットアップ**ウィンドウで行った切り取り領域の修正または変更などを取り消します。また、複数回にわたる操作の取り消しも可能です。
- **やり直し：取り消し**コマンドで取り消した操作を再度適用します。
- **切り取り：**テキストフィールド内のテキストを選択してからこのコマンドを選択すると、選択したテキストがフィールドから削除されシステム共通の仮想クリップボードに保存されます。
- **コピー：**選択したテキストを削除することなくクリップボードに保存します。
- **貼り付け：**クリップボードにあるテキストのコピーを挿入点に配置します。
- **クリア：**クリップボード内のテキストをすべて削除します。
- **すべてを選択：**挿入点が位置しているフィールドに含まれるすべてのテキストを選択します。**サムネイル**ウィンドウでは、これによりウィンドウ内の全アイコンが選択されます（65ページの「サムネイルウィンドウ」を参照）。
- **選択解除：**現在表示されている画像の切り取りを解除します。
- **クリップボードを表示：**クリップボードの現在の内容を表示します。

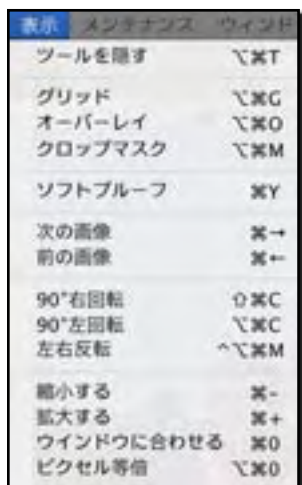
画像メニュー

画像メニューからは、**サムネイル**ウィンドウ（詳細は65ページを参照）の修正ダイアログ内でも利用可能な機能がすばやく利用できます。複数のファイルを選択し、**画像**メニューから**修正**を選ぶことができます。これにより、対応する数の処理タスクが**タスク**ウィンドウ内のリストへ追加され、ファイルへの処理がバックグラウンドで行われます。この処理タスクが新しいスキャンプロセスにより中断されることはありません。

修正

修正機能を使って現在の設定から設定を追加する場合、切り取り指定は追加した設定内で維持されます。当該の画像のサイズが互いに異なる場合、切り取り範囲は適宜サイズ変更されます。

承認

多くの画像を選択し、**承認**を選びます。**承認によるソート**を選択した場合は、画像は**サムネイル**ウィンドウの上部に表示されます。

ビューメニュー

ビューメニューでは、グリッド、オーバーレイ、および切り取り範囲外の非表示の制御と、画像の拡大縮小および選択とに関する「秘密の」ショートカットを見ることができます。

ソフトプルーフ機能は、使用しているモニタのICCカラープロファイルをカメラバックおよび出力デバイスのプロファイルと組み合わせて、出力される色のシミュレーション結果を画面表示します。この機能は、使用する出力デバイスが確定している場合にのみ有効にしてください。一般目的でのRGBキャプチャをしている場合、この機能は選択しないでください。

ソフトプルーフが有効な場合は、メイン**FlexColor**ウィンドウ内の**色情報**領域の右に小さくsと表示されます。

ツールを隠すコマンドでは、ツールウィンドウをすべて非表示にできます。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューにはスキャナーの補正とアップグレードに使用されるエントリが含まれています。これらのエントリの機能は使用しているFlextightスキャナーのモデルにより異なります。

- **フォーカス補正：**補正ウィンドウを開きます。このウィンドウでスキャナーのフォーカスとサイズを補正することができます。補正の頻度と方法についての詳細はスキャナーハードウェアの資料を参照してください。

本機能は Flextight Photo および 343 スキャナーには適用しません。

- **白補正：**反射型元画像の白補正を開始します。補正の頻度と方法についての詳細はスキャナーハードウェアの資料を参照してください。

反射スキャンのできるスキャナーのみこの機能が必要です。

- **フィーダー：フィーダー**ウィンドウを開きます。このウィンドウでフィーダーの取付け、取外し、調整、トラブルシューティングができます。詳細についてはフィーダーの取扱説明書を参照してください。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューでは、FlexColorで利用可能な各画像設定ウィンドウを開閉します。現在開いているウィンドウには、ウィンドウ名の左側にチェックマークが示されています。これらの各ウィンドウの詳細は、本書の適切なセクションを参照してください。

グラデーションウィンドウ.......... 93 ページ

ヒストグラムウィンドウ .... 85 ページ

色補正ウィンドウ..... 99 ページ

テクスチャーウィンドウ .... 101 ページ

詳細ウィンドウ .... 107 ページ

バッチスキャンウィンドウ .... 109 ページ

サムネイルウィンドウ......... 65 ページ

色情報ウィンドウ .... 83 ページ

 FlexColor を Flextight スキャナーと併用する場合は、露出、ライブビデオ、インポートは利用できません。

メイン FlexColor ウィンドウ

はじめに

メインFlexColorウィンドウは、プレビュー画像を表示し、FlexColorで利用できるスキャン・編集機能の大部分へのアクセスを提供します。

スキャン制御

プレビュー プレビュースキャンを行います。プレビュー画像が右側の大きな領域に現れます。画像補正設定の全て（階調範囲、グラデーション、色補正など）がこの画像上でプレビューされます。

スキャン (このボタンはプレビューウィンドウで3fファイルを見ているときには保存ボタンに変わります。）現在適用されている切り取り、モード、画像処理設定を使用して、プレビュー画像から最終スキャン（標準TIFFファイルなど）を作成します。

保存 (このボタンはプレビューウィンドウでプレビュース

キャンを見ているときにはスキャンボタンに変わります。）**FlexColor**ウィンドウに現在表示されている 3f ファイルから画像を（標準TIFFファイルとして）保存します。保存される画像には、切り取り、モード、色、および画像処理の現在の設定が適用されます。ファイルを保存する際に使用された設定の履歴記録が、3f ファイルの情報ウィンドウ内のヒストリーリストに追加されます。詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。

3f...選択されたフレームの全領域あるいはプレビュー画像に現在適用されている切り取りをスキャンし、現在選択されているフォルダーに3f ファイルとして保存します。画像は**FlexColor**プレビューウィンドウに表示されます。 この機能を選択したときにポップアップするウィンドウおよび**環境設定**ウィンドウの3f タブで指定された切り取り、解像度、IPTC設定を使用して、3f ファイルはスキャンされます（55ページ参照）。詳細は、本書10ページの「3fファイル形式」を参照してください。

前の画像/次の画像ボタン：これらのボタンは、サムネイルフォルダから前の画像または次の画像を選択するために使います。

バッチスキャンボタン：バッチスキャンウィンドウを開きます。このウィンドウからバッチスキャンを行うことができます。同一のプレビューから異なる切り取りと設定を使用して複数のスキャンを行うか、フィーダーユニットからスキャンします（Flextight 848 と 949のみ）。詳細は、本書109ページの「バッチスキャン」を参照してください。

サムネイルボタン：サムネイルウィンドウを開いて、現在のフォルダに保存されている 3f ファイルのサムネイル画像を表示します。詳細は65ページの「**サムネイル**ウィンドウ」を参照してください。

セットアップ このポップアップメニューは、現在利用可能なセットアップ間の切り替え選択に使います。 セットアップに影響を及ぼすカスタム変更を行った場合、その

変更がまだ保存されていないと、メニューの右側に小さい＋が表示されます。

フレーム このポップアップメニューは、スキャンしている元画像のファイル形式（サイズ）の設定に使いますこの設定は、**セットアップ**ウィンドウの**一般**タブにおける**フレーム**設定と同じものになります。詳細は38ページの「一般タブ」を参照してください。

リストから**カスタム**を選択するとカスタムフレームを作成することができます。詳細は31ページの「カスタムフレーム」を参照してください

自動フレームボタン：自動フレームをON/OFFします。この機能が使用可能な場合、スキャナーは自動的に現在のオリジナルホルダーのIDコード（ホルダーの先端にある長方形の小さい穴の組合せ）を読み込み、その結果に応じてフレーム設定を調整します。

このボタンは**環境設定**ウィンドウの**スキャナー**タブにおける**自動フレーム認識**チェックボックスの設定を反映するものです。詳細は53ページの「**環境設定**」を参照してください。

このボタンは自動フレーム認識機能をサポートするスキャナーのみで使用可能です。

モード このポップアップメニューは、スキャンモード（RGB、RGB 16ビット、グレースケール、グレースケール16ビット、線画、またはCMYK）を設定するために使います。この設定は、**セットアップ**ウィンドウの**一般**タブにおける**モード**設定と同じものになります。詳細は38ページの「一般タブ」を参照してください。

キーボードショートカット

関連するキーボードショートカットについては124ページの「付録」を参照してください。

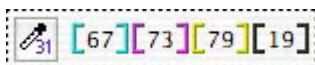
自動フォーカス制御

自動フォーカス機能をサポートするスキャナーのみで使用可能。

自動フォーカス：このチェックボックスは自動フォーカス機能をON/OFFします。最終スキャンの前に、スキャナーは現在適用されている切り取り範囲の中心で、水平方向のラインにピントを合わせます。

自動フォーカスインジケータ：インジケータの中心にある水平線で示される標準フォーカス補正と比較した現在のフォーカスレベル（赤あるいは緑の水平線）を表示します。

赤い線は粗偏差を示し、この場合フォーカス補正が必要です。スキャナーの「ユーザーガイド」を参考にしてください。

色表示

色表示を使用するには、マウスポインタをプレビュー画像上へ移動します。すると、画像内で選択した位置におけるピクセルの明るさが数値フィールドに示されます。

次の点に注意してください。

• 値は全てグラデーションと階調範囲の設定以後の値を示します。

• CMYK表示の場合、値はインクパーセント値（0　100、白＝0, 0, 0, 0）を示します。

• RGB表示の場合、値はピクセルの明るさの値（0　255、白＝255, 255, 255）を示します。

色情報ボタン：色情報ウィンドウを開閉します。このウィンドウは**ウィンドウ**メニューからも使用できます。詳細は85ページの「色情報ウィンドウ」を参照してください。

色補正の制御

ヒストグラムボタン：ヒストグラムウィンドウを開閉します。詳細は85ページの「**ヒストグラム**ウィンドウ」を参照してください。

グラデーションボタン：グラデーションウィンドウを開閉します。 詳細は93ページの「**グラデーション**ウィンドウ」を参照してください。

色補正ボタン：色補正ウィンドウを開閉します。詳細は99ページの「選択的な**色補正**」を参照してください。

テクスチャーボタン：テクスチャーウィンドウを開閉します。詳細は101ページの「**テクスチャー**ウィンドウ」を参照してください。

このボタンをクリックすると、切り取り範囲内画像のヒストグラムに基づいたハイライト点およびシャドウ点の自動設定が適用されます。

このボタンをクリックすると、すべての補正ウィンドウ（**グラデーション、ヒストグラム、色補正、**および**アンシャープマスク**）がニュートラル設定に戻ります。

出力サイズ制御

幅 出力画像の幅の測定値。使用単位は**環境設定**ウィンドウで設定します。詳細は53ページの「**環境設定**ウィンドウ」を参照してください。

高さ 出力画像の高さの測定値。使用単位は**環境設定**ウィンドウで設定します。詳細は53ページの「**環境設定**ウィンドウ」を参照してください。

拡大縮小 最終スキャンの実行、あるいは3fファイルの保存により画像を保存する際に適用される倍率のレベル。**幅**と**高さ**の設定は、ここでの設定を反映するよう更新されます。100%以外の設定を選択する場合、FlexColorは指定のサイズに合うよう画像を補間することに注意してください。

PPI 最終画像の出力解像度。**幅**と**高さ**の設定は、ここでの設定を反映するよう更新されます。最終スキャンを行う際、現在の**拡大縮小**設定とともに非補間（真の光学解像度）スキャンを行う設定がPPIポップアップメニューに下線を引いて表示されます。

サイズ 最終画像ファイルのファイルサイズ。これは**幅、高さ、拡大縮小、**および**PPI**の各設定に左右されます。希望する出力ファイルサイズを入力することもできます。これにより拡大表示パーセントが適宜調整されます（最大200%）。

ロックボタン：このロックボタンにより、出力画像の幅と高さの設定を固定できます。このロック（鍵）が閉まっていると、切り取り範囲の角をドラッグして領域を修正しても出力画像の幅と高さは変更されず、高さと幅の比が維持されます。ロックをクリックして設定をトグルします。

切り取りボタン：通常、このボタンはグレー表示され、この切り取りツールがアクティブであることを示しています。切り取りツールがアクティブな場合は、プレビュー画像上でマウスをクリック&ドラッグして切り取り範囲を操作することができます。ただし、カラーピッカーなど一部のツールでは色選択用にポインタが変形され、切り取りツールは使えなくなります。こうしたツールがアクティブな場合は、切り取りボタンが白色表示になります。切り取りツールに戻すには、切り取りボタンをクリックします。

切り取りツールとサイズツールを使用する場合は、次の点に注意してください。

- スキャナーを扱う場合、一般に得ようとする出力画像のピクセル数および解像度はあらかじめわかっています。その場合は、まず**高さ**フィールドと**幅**フィールドにピクセル数を入力し、出力解像度を**PPI**ポップアップメニューから選択します。次に、ロックアイコンをクリックしてロックが閉まった状態にします（これで高さと幅の設定が固定されます）。この状態になると、切り取り範囲をクリック&ドラッグして画像構成を定義できるようになります。 **拡大表示**値は自動的にこの変更を追跡して、出力画像の高さ、幅、またはPPIを維持します。
- 切り取り範囲を設定するには、マウスポインタをプレビュー画像上へ移動します。スキャンしたい範囲の角でマウスボタンを押し、そのままポインタをドラッグして希望する範囲の境界線まで移動します。マウスボタンを離して範囲を選択します。
- 切り取り範囲を移動するには、マウスポインタを境界線の内側に移動したのち、範囲をクリック&ドラッグします。希望する位置まで範囲を移動したらマウスボタンを離します。
- 切り取り範囲のサイズを変更するには、マウスポインタを範囲の辺または角へ移動します。するとポインタが両方向矢印に変わります。その状態で範囲の辺または角をクリック&ドラッグすると、その範囲を伸縮できます。

拡大表示の制御

縮小：このボタンをクリックすると、プレビュー画像が小さくなります。

拡大：このボタンをクリックすると、プレビュー画像が大きくなります。

ウィンドウに合わせる：このボタンをクリックすると、実際のウィンドウサイズに合わせてプレビュー画像がサイズ変更されます。

詳細：このボタンをクリックすると、詳細ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、画像の詳細情報を表示し、高度に拡大表示されたプレビュー画像の特定のピクセルにおける色値を読み取ることができます。詳細は107ページの「詳細ウィンドウ」を参照してください。

800% 現在の拡大縮小レベル

拡大縮小に関するキーボードショートカット

- プレビュー画像全体をウィンドウに表示するには、cmd-0 とキー入力。
- 拡大表示は、cmd+ とキー入力。
- 縮小表示は、cmd- とキー入力。
- 100%表示は、alt-cmd-0 とキー入力。
- **詳細**ウィンドウを開くには、cmd-5 とキー入力。

回転と左右反転の制御

左右反転ボタン：プレビュー画像と最終画像の両方を左右反転します。

回転ボタン：プレビュー画像と最終画像の両方をいずれかの方向に90度ずつ回転します。詳細は、本書28ページの「画像の回転」を参照してください

回転･左右反転アイコン：スキャンされた画像に対する現在の回転/左右反転設定を表示します。

画像の回転

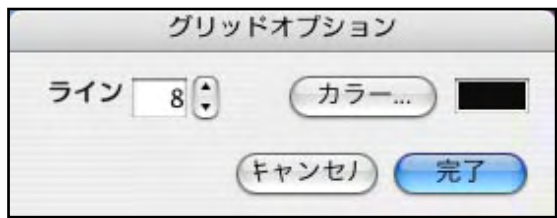
FlexColorプレビューウィンドウでの作業用に元画像を回転して横置きにすることがあります。回転ボタンを使用して画像を時計方向あるいは半時計方向に90度ずつ回転することができます。これにより、プレビュー画像と最終画像の双方が回転されます。

左右反転

回転画像のスキャンはメモリーを必要とするので、(特に大きなスキャンの場合)スキャン速度がやや遅くなります。

他の制御

グリッド/オーバーレイボタン：グリッドあるいはオーバーレイをプレビューに追加表示します。最終スキャンの前に元画像を並べるのに役立ちます。

オプションキーを押したままこのボタンをクリックすると、**グリッドオプション**ウィンドウが開きます。

このウィンドウで、グリッド線の数と色を定義できます。線の数は最小画像の（幅または高さの）ピクセル数あたりのものです。**オーバーレイ使用**チェックボックスがチェックされていた場合、グリッドの代わりに指定されたオーバーレイが表示されます。通常のグリッドモードに戻るにはチェックボックスのチェックを解除してください。画像へのオーバーレイ追加方法の詳細は、29ページを参照してください。

オーバーレイ： 本機能は主にデジタルカメラバックユーザー用です。プレビューにオーバーレイを追加することは可能です。TIFF、JPEG、GIF、PNGなど、すべての標準画像ファイルタイプが使用できます。オーバーレイを追加するには、画像ファイルをプレビューウィンドウ内にドラッグします。いったん追加したオーバーレイ画像は、クリック&ドラッグにより正しい位置まで移動することができます。オーバーレイがグリッドを置換えるので、グリッド/オーバーレイボタンを使用してオーバーレイをON/OFFします（28ページ参照）。

切り取り範囲外を隠す：切り取り範囲が評価できるよう画像の不要な部分を暗くします。

カスタムフレーム

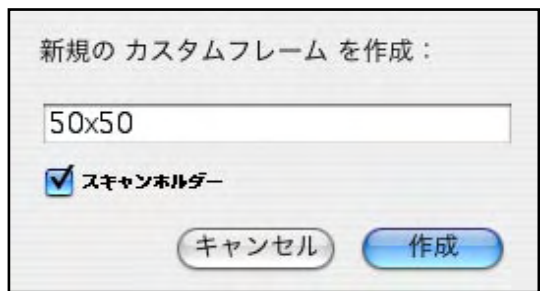
Flextightには元画像の複数の標準ファイル形式をサポートするオリジナルホルダーがいくつか用意されています。Flextightをカスタムの非標準ファイル形式と使用することも可能です。多数のカスタムフレームファイル形式を定義することができます。

カスタムフレームを定義するには以下を行ってください。

- メインFlexColorウィンドウの**フレーム**ポップアップメニューから**カスタム**を選択します。**フレーム**ウィンドウが表示されます。

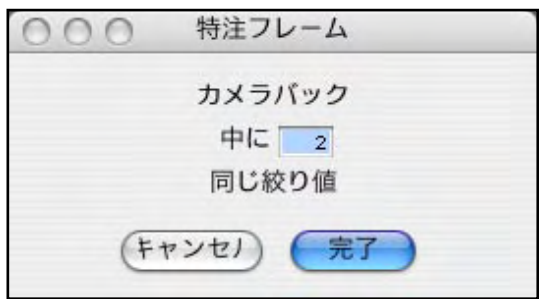
ウィンドウには現在のスキャナーに関連するフレームのリストが示されます。チェックマークはフレームが**フレーム**ポップアップメニューから利用できるかどうかを示します。フレームを追加、除去するには、フレームをダブルクリックするか、あるいはフレームを選択して**エクスクルード**/**インクルード**ボタンをクリックします。リスト内の事前に定義されたフレームは（Hasselbladにより定義済）は編集不可能で、左側に非編集の印が付いています。

フレームが選択されるとそのフレームの現在の設定が**フレーム情報**セクションに表示されます。設定が表示されていない場合は、左側の小さな三角マークをクリックしてください。

- **新規**ボタンをクリックします。**新規カスタム**フレーム作成ウィンドウが表示されます。

*ウィンドウが表示されるときに**スキャンホルダー**チェックボックスがチェックされている場合は、34ページの「オリジナルホルダーフレームのスキャン」で説明されているように、スキャナーはオリジナルホルダーフレームのスキャンをサポートします。ファイル形式を示唆するような名前をキー入力し、**作成**をクリックしてください。フレームポップアップメニューで現在選択されているフレームの仕様に基づいて、新しいフレームがフレームリストに追加されます。*

- **タイプ**ポップアップメニューから適切なホルダータイプを選び、**幅、高さ、縦**オフセットの各値をフレームに合わせて編集します。

*スキャナーに移動式光学システムが付いている場合は、透過フレームに**幅、高さ、縦オフセット**を指定することができますが、反射フレームは反射モードで使用される白補正のために数個の固定幅に限定されています。*

- 絞りが2個あるフレームを指定したい場合は、**スプリットフレーム**ボタンをクリックしてください。

- **スプリットフレーム**ポップアップで、フレームを同一サイズの絞りに分割したい数を選び、**作成**をクリックします。

- 各絞りごとのサブフレームがリストに追加され、各絞りの**幅、高さ、縦オフセット**が編集できるようになります。
- リストからカスタムフレームを削除するには、フレームを選択し、**削除**ボタンをクリックします。
- 終了したら**カスタムフレーム**ウィンドウを閉じてください。

  注意！　**デフォルト**ボタンをクリックすると、**フレーム**リストはスキャナーとともに供給されたフレームを記載するオリジナルリストにリセットされます。

オリジナルホルダーフレームのスキャン

注意！新しいホルダーにスキャナーが対応する場合は、そのホルダーをスキャナーに取付け、**新規カスタムフレーム作成**ウィンドウでフレームに名前をつけ、**スキャンホルダー**ボックスをチェックし、**作成**をクリックします。スキャナーがホルダーをスキャンし、その結果が**フレーム情報セクション**に表示されます。**自動フレーム認識**機能（54ページ参照）がホルダーを認識できるようになり、3f 機能が全て使用可能になります。

セットアップウィンドウ

はじめに

セットアップウィンドウには、画像に影響を及ぼす多数の設定が表示され、FlexColorアプリケーションの他のツールがどのように機能するかが示されます。このウィンドウに表示されるすべての設定は、保存してハードディスクからロードすることができます。

セットアップウィンドウを開くには、**ファイル**メニューから**セットアップ**を選択します。

鮮鋭度、グラデーション、色補正などの設定の多くは、メイン**FlexColor**ウィンドウのツールボタンにより個別に利用可能です。個々のツールを使って行う設定は、すべて**セットアップ**ウィンドウにも適用され、逆にセットアップウィンドウでの設定も個々のツールに反映されます。

希望する設定を見つけやすくするため、**セットアップ**ウィンドウはいくつかのタブシートに分かれています。

FlexColor のセットアップ理念

フィルム撮影した写真をスキャンして取り込む伝統的な製版環境で良好な結果を得るには、全設定を行うため幅広い知識と経験を持った専門のスキャナーオペレータが必要でした。このオペレータは、元画像をそれぞれ調べ、それまでの経験を加味した上で、元画像のタイプに合わせて全設定に「最善の推測値」を入力します。そして、プレビューをチェックしてさらに微調整を行います。

FlexColorでは、最も頻繁に使用するセットアップのライブラリを保存することにより、このプロセスが単純化されています。**セットアップウィンドウ、グラデーションウィンドウ、ヒストグラムウィンドウ、**および**アンシャープマスク**ウィンドウの全設定を含むほぼすべてのFlexColor設定は、それぞれのセットアップファイルに保存されます。

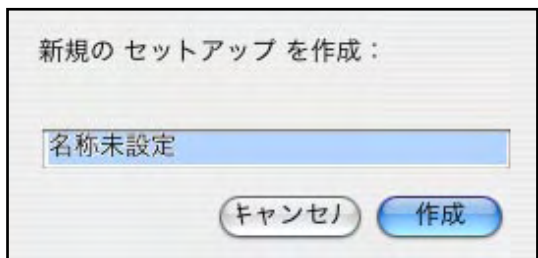
各スキャン時には、**セットアップ**メニューからもっとも希望に近いセットアップを選択し、切り取りを定義し、**自動**ボタンをクリックするだけで、完璧なスキャンに98〜100%近い結果が得られます。

FlexColorには、一般的なセットアップがいくつか用意されており、すばやく作業を始めることができます。**セットアップ**ポップアップメニューは、現在のスキャンに合った設定を選択するために使います。各セットアップの名前は、それぞれ目的に応じた名前で示されています。

最初は、一般的なセットアップから始めてください。独自のセットアップライブラリを作成する場合は、希望に最も近い一般セットアップを選択、修正して、新しい名前で保存します。

セットアップの管理

新しいセットアップを作成するには、**新規**ボタンをクリックします。するとウィンドウが表示され、そこで新しいセットアップに名前を付けることができます。新しいファイルには、**セットアップウィンドウ、グラデーションウィンドウ、ヒストグラムウィンドウ、**および**テクスチャー**ウィンドウで現在適用されている設定が保存されます。

現在ロードされているセットアップの名前を変更するには、**名前変更**ボタンをクリックします。するとウィンドウが表示され、そこでセットアップの名前を変更することができます。

現在のセットアップに変更を加えたら、**セットアップ**ウィンドウの**保存**ボタンをクリックしてそれらの変更を保存します。

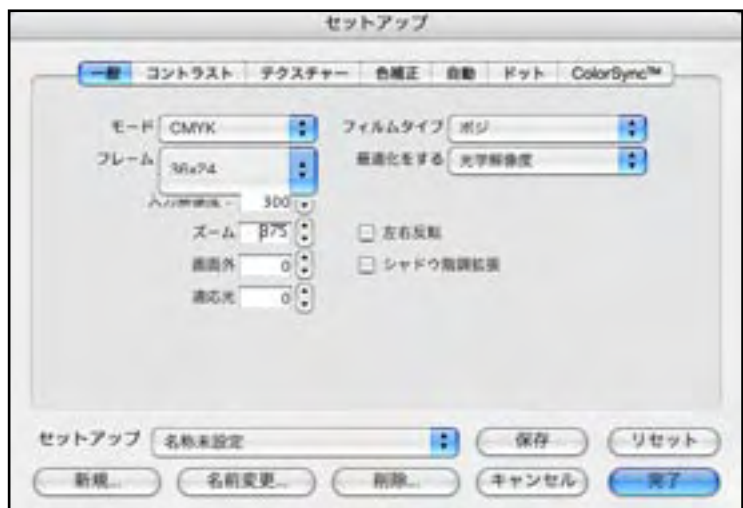
現在のセットアップを削除して**セットアップ**ポップアップメニューから除去するには、**削除**をクリックします。

*FlexColorに用意されている一般的なセットアップは、誤って修正、名前変更、または削除してしまわないようあらかじめロックされています。一般的なセットアップを修正する場合は、**セットアップポップ**アップメニューからセットアップを選択し、修正したのち、**新規**をクリックして修正内容を**新しい**名前で新しいセットアップに保存します。*

上級セットアップ管理

メイン**FlexColor**ウィンドウの**セットアップ**ポップアップメニューにはいくつかのセクションがあります。ユーザーの定義するセットアップはリストの下部に表示されます。セットアップはすべて個々のファイルとして設定というフォルダに保存されます。フォルダはFlexColorアプリケーションと同一のフォルダです。**セットアップ**ポップアップメニューの各セクションは、設定フォルダ内のフォルダに対応します。メニューの編成をカスタム化したい場合は、必要に応じて新規フォルダの追、設定ファイルの移動などを行ってください。

一般タブ

セットアップウィンドウの一**般**タブは、インターフェースの一般的な動作を設定し、現在ロードされているセットアップファイルを識別します。

モード

ポップアップメニューで、最終スキャンを行う際に使用する色空間を選択できます。次のオプションが利用できます。

- **RGB:** 標準8ビットRGB TIFFファイルとして最終画像を保存します。
- **RGB 16ビット:** 標準16ビットRGB TIFFファイルとして最終画像を保存します。これにより、スキャナーでキャプチャした最大の色解像度が維持されますが、ファイルサイズが大きくなるため、一部のアプリケーションで読み込みができなくなります。
- **グレースケール:** 白黒写真など、グレースケール画像を作成します。グレースケールファイルはカラーファイルよりファイルサイズが小さくなるため、元画像または最終発行物が白黒の場合はこのモードを使ってください。グレースケールの結果を得る際、FlexColorでは3つのRGB色チャネルすべてから情報が組み合わされます。

- **グレースケール16ビット:** 16ビットグレースケールTIFFファイルとして最終画像を保存します。これにより、スキャナーでキャプチャした最大の階調範囲が維持されますが、一部のアプリケーションで読み込みができないファイルが生成されます。グレースケールの結果を得る際、FlexColorでは3つのRGB色チャネルすべてから情報が組み合わされます。
- **線画:** 各ピクセルが100%黒色または100%白色である1ビット画像を作成します。これらのファイルは、グレースケール画像よりさらにファイルサイズが小さくなります。このモードは、元画像がペン画やインク画などの場合に使います。入力が黒になるか白になるかを決める基準となるしきい値は、**グラデーション**ウィンドウで調整します。詳細は97ページの「線画スキャン用のしきい値設定」を参照してください。このモードを使う場合、ICCプロファイルからの影響はありません。
- **CMYK:** 印刷できる状態のカラー画像を作成します。FlexColorから直接CMYK画像を作成するには、ICCプロファイルの設定が必要です。ICCプロファイルの詳細は、47ページの「ColorSyncタブまたはICMタブ」を参照してください。

フレーム

このポップアップメニューは、スキャンに使用するオリジナルホルダーを選択する際に使います。

出力解像度

出力画像の解像度を定義します。印刷出力の要件に応じて、この値を設定します。大部分の高品質配色では300 ppiを採用しています。新聞は一般にそれ以下です（150～200 ppi）。インターネット用など画面表示に必要とされるのは、わずか72 ppiです。PPIおよび画像サイズ調整の詳細は、25ページの「サイズ制御」を参照してください。

拡大縮小

画像を保存する際に適用される倍率のレベル。拡大縮小および画像サイズ調整の詳細は、25ページの「サイズ制御」を参照してください。

デスクリーン

オフセット印刷の元画像をスキャンする際、この設定が画像のロゼットを補正します。画像のピントをずらして印刷物にモアレパターンが現れるのを防ぎます。設定が高ければ高いほど、効果が増します。

適応光量

元画像が非常に暗い場合、この設定を使用して露出時間を延長することができます（古いスキャナーモデルでは光度を増加します）。

フィルムタイプ

このポップアップメニューは、スキャンする元画像のタイプを識別する際に使います次のオプションが利用できます。

- ポジ：カラーポジ画像、白黒ポジ画像用
- カラーネガ：カラーネガ画像用
- 白黒ネガ：白黒ネガ画像用

左右反転

元画像が鏡像だった場合、もしくは元画像から鏡像を作成したい場合は、このボックスをクリックしてチェックマークを表示させます。スキャン通りに画像を維持するには、このボックスがチェックされていないことを確認してください。

最適化

最適化ポップアップウィンドウでは以下のオプションが使用できます。

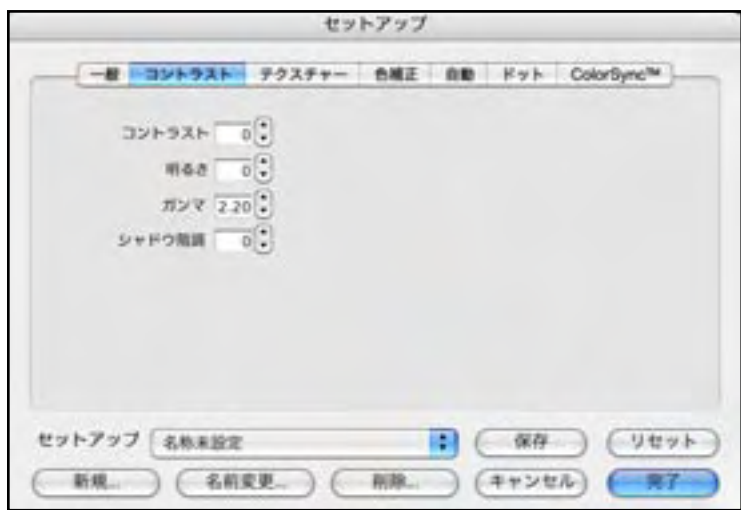
- **品質:** 最高の品質を得るときに使用します。
- **速度:** サイズ変更をフルに利用して高速スキャンを可能にします。
- **真の解像度:** ソフトによるサイズ変更を避けるときにこのモードを使用します。

シャドウ階調拡張

シャドウ領域により多くのディテールをもたらすアルゴリズムをアクティブにします。この機能は、非常に狭いダイナミックレンジを持つ画像、または暗色領域に異常に大量の色情報を持つ画像には適応しません。

コントラストタブ

コントラストタブシートでの設定は、**グラデーション**ウィンドウ（**ウィンドウ**メニューから利用可能）での設定と全く同じものです。このセットアップウィンドウで行った変更は、グラデーションウィンドウに反映され、逆にグラデーションウィンドウでの設定もセットアップウィンドウでの設定に反映されます。

これらの設定に関する詳細は、93ページの「**グラデーション**ウィンドウ」を参照してください。

テクスチャータブ

テクスチャータブでの設定（色%設定を除く）には、**テクスチャー**ウィンドウ（**ウィンドウ**メニューから利用可能）で行った設定が反映されています。**アンシャープマスク、色ノイズ、FlexTouch**などの機能の使用に関する詳細は、101ページの「**テクスチャー**ウィンドウ」を参照してください。

カラー%

これら3つのフィールド（**レッド、グリーン、ブルー**）は、各色チャネルに適用する鮮鋭化効果の量を制御します。通常、これらの値は、全チャネルに均等な鮮鋭化が適用されるよう、それぞれ100のままにしておきます。ひとつのチャネル（典型的にブルーチャネル）だけ鮮鋭化効果を落とすことにより、ノイズ効果を低減できる場合もあります。これらの設定を使って特殊効果をもたらすこともできます。

CC（色補正）タブ

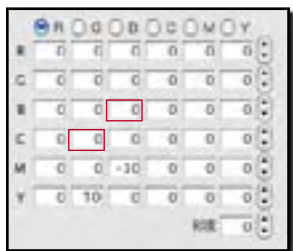
CCタブには色補正チャートが含まれており、これにより入力色の出力色へのマップ方法を変更することができます。これは、色かぶりを除去または追加し、あるいは画像に強い色を生み出す際に使うことができます。

このマトリックスには、**色補正**ウィンドウ（**ウィンドウ**メニューから利用可能）と同じ設定が含まれ、このウィンドウで行った設定がすべて表示されます。多くの場合、このCCタブよりも色補正ウィンドウで調整を行った方が容易に処理できます。詳細は99ページの「選択的な**色補正**」を参照してください。ただし、ここに示したマトリックスの方が、現在のセットアップの色補正設定について全体をより理解しやすくなっています。

色補正をアクティブにするには、**適用**チェックボックスをクリックして選択します。色補正設定を無効にするには、このボックスを再度クリックしてチェックマークを除去します。このボックスは、クリックしてチェックマークを切り替えるようになっています。

画像内で任意の色成分の量を修正するには、このマトリックスの最上部にある目標色横のボタンをクリックします。次に、マトリックス右側にある各成分色の上下ボタンを使って、目標色からその成分を追加または除去します。

これと同じ操作は、行列内の任意のフィールドをクリックして、キー入力により値を編集して行うこともできます。画像全体で彩度を修正するには、**彩度**上下ボタンを使うか、希望する値をフィールドにキー入力します。

ブルー内のマゼンタの量を減らし、グリーン内のイエローを追加するには、次のようにします。

このツールの用途を詳細に説明すると複雑になり、本書の目的から外れるため、ここでは省略します。色マッピングに関する詳細は、印刷業者に問い合わせるか、または最寄の図書館か書店で電子製版に関する書籍を参照してください。

自動タブ

自動タブシートでは、**シャドウ**および**ハイライト**用のパーセント設定を行います。**自動**ボタンを使う場合、FlexColorアプリケーションでは対象となる画像のヒストグラムに基づき、適切と考えられるハイライト値とシャドウ値が算出されます。次に、ここで設定したパーセント値により各値が修正されて、最終設定が決定します。これらのパーセント値は、ハイライト設定とシャドウ設定の差分に適用されます。

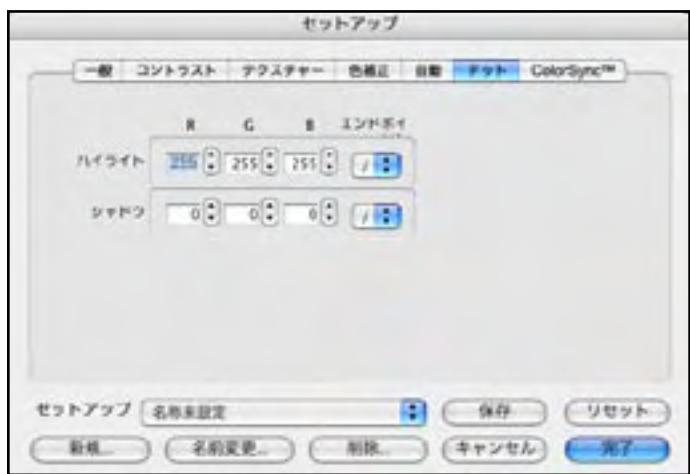
例えば、**ハイライト**用の**自動**%を2に設定し、通常ならハイライトが200程度になる自動機能を画像に使うと、ハイライト値はFlexColorにより196と割り当てられます（シャドウ値がゼロの場合）。頻繁にハイライト値またはシャドウ値の調整を行って自動機能よりも両者間の幅を狭める必要がある場合は、ここで正値の設定を行います。その場合、結果としてコントラストは比較的高まります。

自動%設定には負の値を設定することもできます。その場合は、自動制御によりハイライトとシャドウに比較的穏やかな設定が適用

されます。例えば、**ハイライト**用の**自動**%が-2のとき、通常ならハイライトが200程度になる自動機能を画像に使うと、ハイライト値はFlexColorにより204と割り当てられます（シャドウ値がゼロの場合）。この設定では、ハイライト点をより低く設定する場合と比べ、階調範囲の極値でより多くのディテールを維持することができます。

ハイライト点とシャドウ点の詳細は、85ページの「**ヒストグラムウィンドウ**」を参照してください。

ドットタブ

ドットタブの設定は画像の明るさを左右します。通常この出力は、各色につき、最も明るい（ハイライト）点で最大（255）、最も暗い（シャドウ）点で最小（0）になります。ただし、インク過剰ですばやく乾燥できないなど、印刷機にトラブルを生じる場合があります。

多くの場合、印刷所からは、特定の制限値以内で画像を準備するよう求められます。このタブシートでの設定は、各色の極値における出力を制限するものです。これらの値設定については、印刷所に相談してください。

3つ (RGB) の列の値は、最大（ハイライト用）または最小（シャドウ用）の値を制御します。RGBカラーの場合は、8ビットの値 (0〜255) が色ごとに示されます。

エンドポイントポップアップメニューでは、入力値が定義済み制限値を超えた場合、各色の列の値がどのように割り当てられるかが決定されます。

その決定のしくみは以下のとおりです。

切捨て: 制限値を超える値はすべて制限値にとどまります。

丸め込み: 制限値を超える値はすべて制限値と最大値 (0または255) の間に均等に振分けられます。

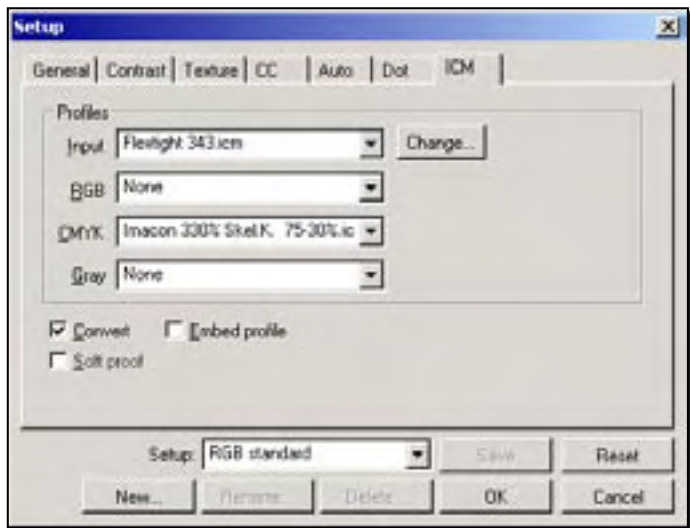
最大値強制: 制限値を超える値はすべて強制的に最大値 (0または255) に変更されます。

ColorSync タブまたは ICM タブ

ICCカラープロファイルは、使用するシステムに含まれる各デバイスの色応答を定義するものです。FlexColorでは、これらのプロファイルを使って、画像に対し、補正された正確で高品質な色分解を行えるようにします。

Mac OSの場合、ICCプロファイルはApple社の**ColorSync**技術により制御され、FlexColorでICCプロファイルを選択するためのセットアップタブは**ColorSync**™と呼ばれます。

Windows 2000とXPの場合、ICC技術は「ICM」(Image Color Management=画像色管理）と呼ばれ、FlexColorでICCプロファイルを選択するためのタブは**ICM**と呼ばれます。

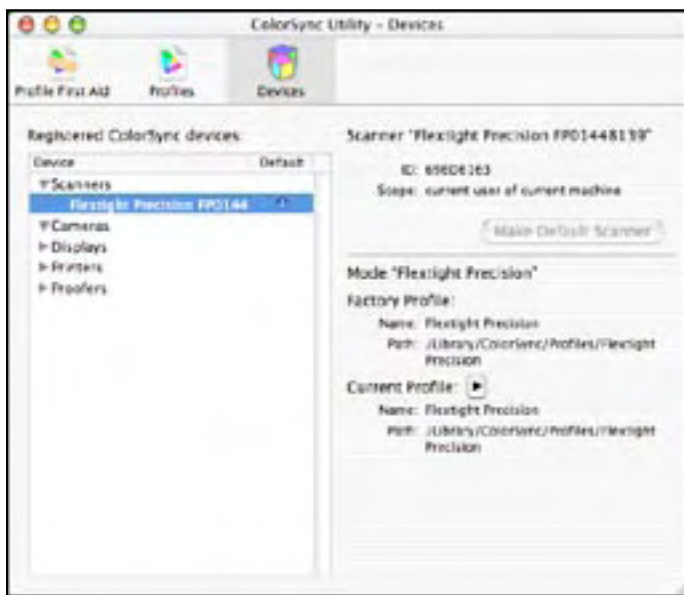
Flextightスキャナー、そしてほとんどのモニタと出力デバイスにはICCプロファイルが含まれており、元画像の色が保持され、画面上の色が印刷物にも正確に再現されるよう支援します。

ICCプロファイルの使用に関する詳細は、ご使用のオペレーティングシステムのオンラインヘルプを参照してください。Apple ColorSync™技術に関する詳細は、Apple社の下記ウェブサイトを参照してください。

http://www.colorsync.apple.com または **http://www.apple.com**.

インプット (Mac)

このポップアップメニューには、システムにインストールされているインプットICCプロファイルのリストが表示されます。

インプットプロファイルを選択する際は「**デバイスのデフォルトプロファイル**」を選択でき、これにより現在のデバイス用に、現在選択されているプロファイルを常に使用する設定を定義することができます。これを行うには、インプットプロファイルの第2アイテム（**デバイス:<プロファイル名>**）を選択します。 ここで、<プロファイル名>は、現在のデバイス用のデフォルトプロファイルの名前です。

デフォルトプロファイルは、インプットプロファイルメニュー右側の**変更**ボタンをクリックするだけで変更できます。これにより、**ColorSync ユーティリティ**アプリケーションへ分岐します。

ここでは、**デバイス**ビューを選択するだけで登録済みデバイスのリストが見られます。使用するカメラまたはスキャナーをリストから選択したら、新しいデフォルトプロファイルを割り当てることも、工場出荷時のプロファイルに切り替えて戻すこともできます。本リリースにインストールされている新規標準設定はすべて、デバイスのデフォルトプロファイルを使います（ネガのスキャンはデバイス固有のプロファイルを使用しないので例外となります）。この新機能の主な利点は、既存設定を編集することなく、独自のカスタムインプットプロファイルへ切り替え可能なことです。

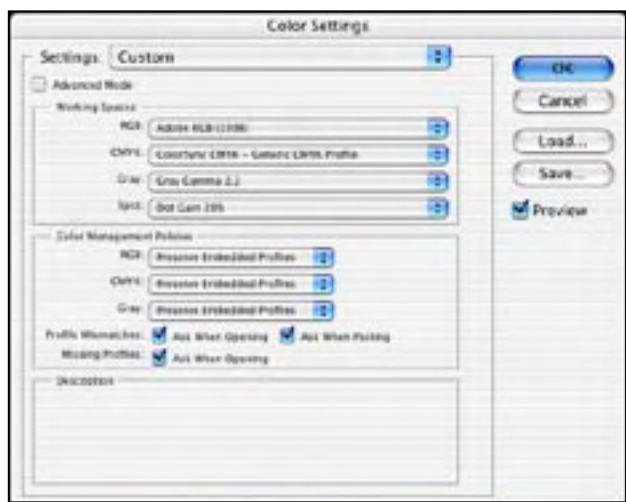
インプット (PC)

変更ボタンをクリックすると**スキャナ**と**カメラ**コントロールパネルが開き、接続されたデバイスのリストが表示される以外は、機能性は基本的にMacの場合と変わりません。

ここでは、使用するデバイスのプロパティを選択し、それにより表示されるダイアログボックス（色管理タブなど）から、付随するプロファイルのリストなど色管理を変更できます。

プロファイルが複数ある場合、FlexColorでは、必ずリスト内の最初にあるプロファイルが選択されることに注意してください。

RGB

このポップアップメニューには、現在システムにインストールされているRGBプロファイルがリストアップされます。作業する色空間を表すプロファイルを選んでください。（Adobe Photoshopを使用している場合は、Photoshopの使っている空間を選ぶことができます。）どの空間がPhotoshopに使用されるかを調べるには、Photoshopを起動して**編集->色設定**を選択します。すると、色設定ウィンドウが表示されます（このウィンドウの使用方法の詳細は、導入ガイド マニュアルを参照）。この例では、RGB作業空間はICCプロファイルAdobe RGB（1998）になります。

RGB色空間（Adobe RGB 1998など）を選択した場合、**変換**フィールドと**プロファイルの埋め込み**フィールドの双方を**ColorSync**タブまたは**ICMタブ**でクリックして選択します。

保存ボタンをクリックして、選択したRGB作業空間をICCプロファイルとして保存します。プロファイルに新しい名前をつけ、オペレーティングシステムの使用するICCプロファイルフォルダに保存します。Mac OSの最新バージョンでは**OSX: System/Library/ColorSync/Profiles** に保存してください。Windowsでは**WINDOWS\SYSTEM32\SPOOL\Drivers\Color**に保存してください。RGBドロップダウンリストに保存したファイルの名前が表示されます。

CMYK

このポップアップメニューには、現在システムにインストールされているアウトプットプロファイルがすべてリストアップされます。出力デバイスに固有のプロファイルを選択するか、FlexColorに用意された一般的なプロファイルから最も希望に近いものを選択してください。一般的なプロファイルの詳細は、59ページの「一般的なICCアウトプットプロファイル」を参照してください。

編集

編集ボタンは、Mac OSバージョンのFlexColorを使用している場合のみ表示されます。アウトプットプロファイルを編集するには、このボタンをクリックします。この機能は上級ユーザの場合のみ、または印刷所から指定があった場合にのみ使用してください。**ColorSync**プロファイルの編集に関する詳細は、60ページの「**ColorSync**カラープロファイルの編集」を参照してください。

グレー

FlexColorでは、画像をグレースケールで保存する場合も完全にICCをサポートします。これは必要な**埋め込み**オプションと**変換**オプションを選択するだけで行うことができ、**変換**を選んだ場合は、グレースケールアウトプットプロファイルも選択する必要があります。なお、グレイスケールモードの場合、異なるインプットプロファイルの選択は不要なので注意してください。 これは、現在選択されているRGBインプットプロファイルに基づき、適切なグレイスケールインプットプロファイルが自動的に生成されるためです。

変換

このチェックボックスが選択されていると、データは現在のインプットプロファイルおよびアウトプットプロファイルの設定に従って変換されます。それ以外の場合、出力ファイルはICC補正されていないデータを含むことになります。

ソフトプルーフ

このチェックボックスをクリックして選択すると、出力デバイスから得られると期待される色を画面表示できます。ソフトプルーフでは、使用しているシステム用に選択したモニタプロファイルとアウトプットプロファイルとを組み合わせて、出力される色がシミュレーションされます。使用するシステムに合わせたモニタプロファイルの設定法、および**ソフトプルーフ**機能の使用法は、導入ガイド マニュアルを参照してください。

プロファイルの埋め込み

保存する画像にプロファイルを埋め込む場合は、このチェックボックスを選択します。埋め込まれるプロファイルは、常にファイルの内容に合致します。変換がアクティブな場合、埋め込まれるプロファイルは、現在のキャプチャモード設定に対応するアウトプットプロファイルになります（RGBプロファイルまたはCMYKプロファイル）。**変換**チェックボックスが選択されていない場合、埋め込まれるプロファイルは現在のインプットプロファイルになります。

環境設定ウィンドウ

はじめに

環境設定ウィンドウには、スキャナーとそのソフトウェアの一般機能を制御する他の各種設定が含まれています。この環境設定ウィンドウの設定はFlexColorアプリケーション全体に適用されるもので、セットアップファイルの他の設定には保存されません。このウィンドウを開くには、**FlexColor**メニューから**環境設定**を選択します。

スキャナータブ

スキャナータブには、現在のデバイス用に次の設定が含まれます。

省力機能

電力節減のために、一定期間使用されないときにスキャナーが停止するように設定することができます。

2段階の省力設定があります。

- **スキャナーの自動電源オフ:** スキャナーの電源OFF、前面パネルのON/OFFボタンを押したのと同じ状態。
- **ランプの自動電源オフ:** スキャナーの電源はON、ランプのみ消灯。

スライダーを使って、省力機能を起動するための不使用期間を設定してください。

白補正使用

Flextight Precisionスキャナーの旧モデルには、白補正の確認にこのオプションを使用するものがあります。現在ではFlextightの全ユーザーに白補正を推奨しているので、このボックスは常にチェックしておいてください。他のFlextightモデルにはこのボックスは何もしません。

Flextight Precisionスキャナーを使用している場合は、スキャナーハードウェア用のマニュアルの補正情報を参照してください。

自動フレーム認識

この機能をサポートしているスキャナーのみで利用可能！このチェックボックスは自動フレーム認識機能をON/OFFします。
この機能が使用可能な場合、スキャナーは自動的に現在のオリジナルホルダーのIDコード（ホルダーの先端にある長方形の小さい穴の組合せ）を読み込み、その結果に応じてフレーム設定を調整します。このチェックボックスの設定はメイン**FlexColor**ウィンドウの自動フレームボタンの設定を反映するものです（23ページ参照）。

カメラタブ

デジタルカメラバックのみに適応。

3f タブ

スキャン3f機能を使用してスキャンする時、画像は3fファイルとして現在選択されているフォルダに保存されます。本書10ページの「3fファイル形式」で説明したように、3fファイルには、ファイルに関するさまざまな情報を入れることができます。

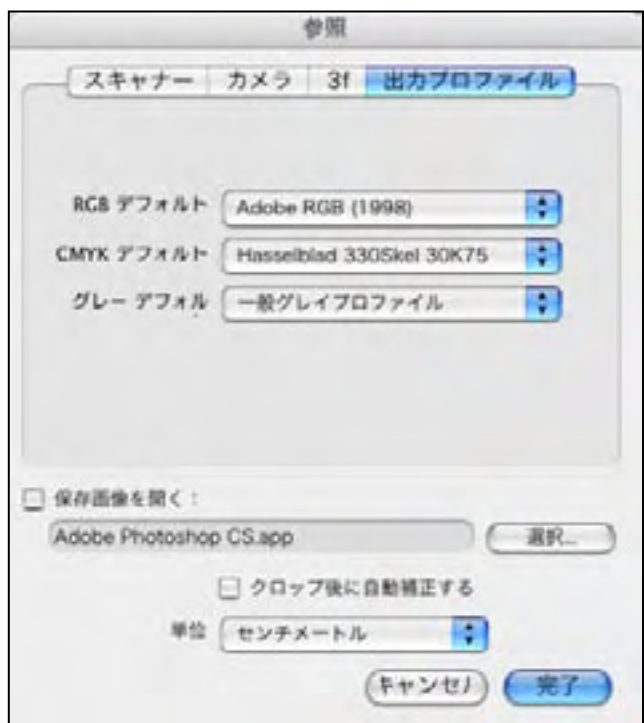
スキャンサイズ

3fファイルの一般制限の設定に使用します。**最大解像度**に対する割合に例えば**50%**を設定すると、現在選択されているオリジナルホルダーで利用できる最大解像度の半分で、全3fファイルがスキャンされます。3fファイルのサイズが最大16ビットサイズフィールドで指定されたサイズより大きい場合は、スキャン解像度は自動的に低減され、ファイルサイズが指定値内に維持されます。

デフォルト情報

一連のスキャンを行う際、3fファイル全てに同じ撮影者名と著作権情報を付加したい場合は、スキャン実行前に**署名欄**フィールドと**版権**フィールドにその情報を入力します。後日、それらのファイルを**情報**ウィンドウで開くと、この情報が対応するフィールドに表示されます。詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。

アウトプットプロファイル

アウトプットプロファイルタブはFlexColorで使用されるデフォルトColorSync/ICCプロファイルを指定します。アウトプットプロファイル設定はセットアップごとに保存されますが、各セットアップのオプションのひとつがここで指定されたデフォルトセットアップを使用することです。これにより、プログラムの環境設定に応じてアウトプットプロファイルをダイナミックに指定したセットアップを作成することができます。

アウトプットプロファイルタブには以下の設定ができます。

- **RGB デフォルト: RGB**に保存するデフォルトアウトプットプロファイルを選択。
- **CMYK デフォルト:** CMYKに保存するデフォルトアウトプットプロファイルを選択。
- **グレーデフォルト:** グレースケール（白黒）画像を保存するデフォルトアウトプットプロファイルを選択。

FlexColor の一般設定

環境設定ウィンドウの一番下には、次のように**FlexColor**の一般設定が表示されます。

保存画像を開く

画像がTIFFファイルとして保存されていると、FlexColorではユーザが選択するアプリケーションを起動して、そのアプリケーションで保存済み画像を開くことができます。この機能を使うには、**保存画像を開く**チェックボックスをクリックしたのち、**選択**ボタンをクリックします。表示された標準ファイルファインダウィンドウを使って、保存済み画像を開くために使用するアプリケーションを選択します。

新規切り取り後に再自動設定

FlexColorには自動階調範囲機能が含まれており、これにより切り取り済みの画像が分析され、ハイライトとシャドウの値が適宜設定されます。この機能は、メイン**FlexColor**ウィンドウの**自動**ボタンをクリックすると、随時使用できます。

新規切り取り後に再自動設定チェックボックスは、この自動機能のショートカットを提供するものです。自動ボタンをクリックした場合と同様に、このチェックボックスを選択すると、新しく切り取り範囲を設定するたび、FlexColorによりその切り取り範囲に含まれる画像が即時分析され、ハイライトとシャドウの値が設定されます。

この機能は、**オプション**キーを押しながら新しい切り取り範囲を定義しても制御できます。

- **新規切り取り後に再自動設定**チェックボックスが選択され有効になっている場合は、自動機能を呼び出さずに、オプションキーを押しながら新しい切り取り範囲を定義してください。

- **新規切り取り後に再自動設定**チェックボックスが選択されていない場合は、自動機能を新しい切り取り範囲に適用するため、オプションキーを押してください。

この機能は、既存の切り取り範囲を移動またはサイズ変更してもハイライトとシャドウの設定を更新せず、新しい切り取り範囲にのみ応答します。切り取り範囲を移動またはサイズ変更したのち自動機能を再使用するには、メインFlexColorウィンドウで自動ボタンをクリックします。

階調範囲と自動機能の詳細は、85ページの「**ヒストグラム**ウィンドウ」および44ページの「自動タブ」を参照してください。切り取りに関する詳細は、26ページの「メイン**FlexColor**ウィンドウ」を参照してください。

FlexColor ICC プロファイル

一般的な ICCアウトプットプロファイル

FlexColorには、各種の色分解を生成するための一般的なICCアウトプットプロファイルが6つ含まれています。各プロファイルの名前はそれぞれの出力タイプを説明しています。詳細は次の表1を参照してください。

プロファイル	最大インク量	最大インクの使用量	最大黒インク量	開始時の黒インク量	用途
Hasselblad 250GCR 40K90	250%	GCR 40%	90%	適用せず	新聞、低質インク
Hasselblad 280GCR 30K90	280%	GCR 30%	90%	適用せず	新聞、標準
Hasselblad 330GCR 20K95	330%	GCR 20%	95%	適用せず	光沢紙(雑誌類)
Hasselblad 350GCR 20K95	350%	GCR 20%	95%	適用せず	一般印刷、光沢紙
Hasselblad 330SKEL 30K75	330%	スケルトン	75%	30%	高級印刷、高質インク
Hasselblad 350SKEL 30K91	350%	スケルトン	91%	30%	超高級印刷(例:美術作品の複製)

表1: FlexColorに含まれる一般的なICCアウトプットプロファイル

GCRは、グレー置換（gray color replacement）を意味します。これは暗色部分に黒をのせる処理で、これにより使うインクの総量を軽減します。高い割合でGCRを使うと、画像内の黒インク量が増えます（また、結果的に他の色のインク量は減ります）。

スケルトンブラック処理では、（特に、他の色において）さほど黒の量を加えないため、結果的に明るい色が得られますが、同時により高品質な紙が必要になります。これらのプロファイルは、各チャネルで黒を追加する前、各色に必要な最小インク濃度も指定しています。

使用すべきプロファイルがわからない場合は、最大インク濃度に制限があるかどうか印刷所に問い合わせ、その制限値に適切に準拠するプロファイルを確実に選んでください。ほとんどの場合、Hasselblad 330SKEL 30K75 プロファイルが最良の結果を提供します。

また、ユーザ（またはユーザが使用する業者）の特定の出力デバイスに合ったICCプロファイルが利用可能な場合もあります。その場合は、そのプロファイルを使用してください。

満足できる結果が得られなかった場合は、プロファイルの修正方法について印刷業者から助言を受けてください。「**ColorSyncカラープロファイルの編集**」を参照してください。

ColorSync カラープロファイルの編集

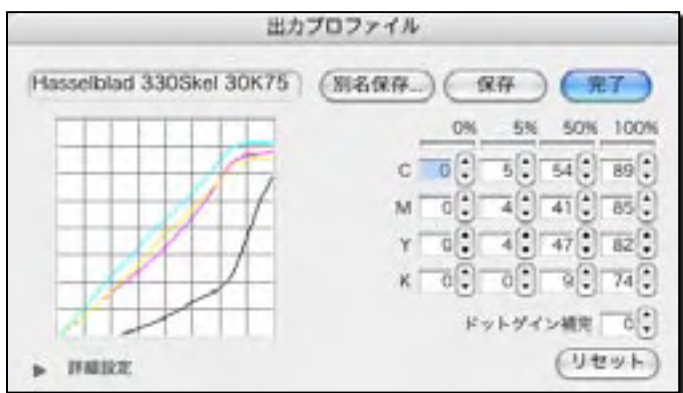
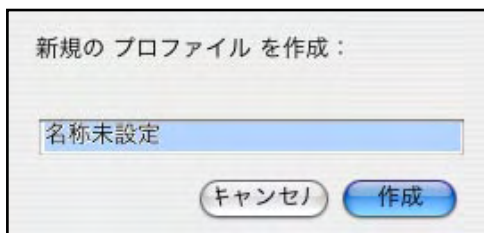
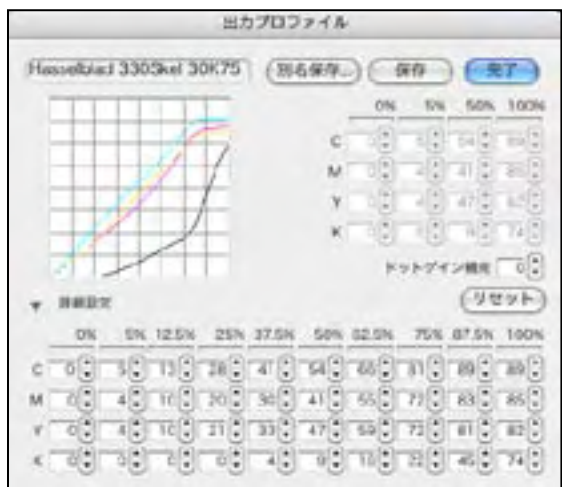
プロファイルエディタは、Mac OSバージョンのFlexColorでのみ利用可能です。

FlexColorには、Flextightスキャナー用に設計されたColorSyncインプットプロファイルと、それぞれ異なる条件下で良好な結果を生み出すよう設計された一般的なアウトプットプロファイルセットの双方が含まれています。

これらの一般的なプロファイルでは、充分な品質から優れた品質の結果が得られます。アウトプットプロファイルをテストし、業者に問い合わせた後で、アウトプットプロファイルを微調整することになった場合は、次の手順に従ってください。

アウトプットプロファイルの編集に利用できる設定は、非常に詳細で強力です。一般に、これらは色分解に熟練したユーザ向けに意図されています。ほとんどの場合は、これらの設定について印刷業者に問い合わせる必要があります。

1. **FlexColor**アプリケーションを実行します。
2. **ファイル**メニューから**セットアップ**を選択します。次に、**ColorSync**™タブをクリックします。

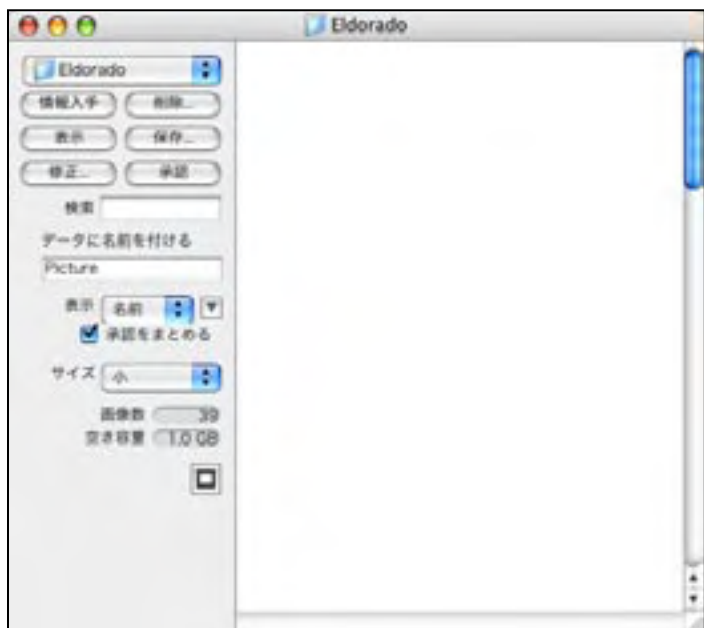
3. **CMYK**ポップアップメニューを使って、編集したいプロファイルを選択します。選択するプロファイルは、希望するプロファイルに最も近いものでなければなりません。あるプロファイルを編集してまったく異なるプロファイルを作成することはできません。メニューにはシステムライブラリーフォルダに現在インストールされている全プロファイルのリストが表示されます。
4. **編集**ボタンをクリックします。すると、**アウトプットプロファイル**ウィンドウが表示されます。

5. 編集するプロファイルは新しい名前で保存することをお勧めします。 **別名保存**ボタンをクリックしてください。すると、**新規のプロファイルを作成**ウィンドウが表示されます。編集するプロファイルの名前をキー入力し、作成ボタンをクリックします。

6. **アウトプットプロファイル**ウィンドウに戻ります。このウィンドウには、色分解した最終ファイルに適用される出力値が、色別に4つの明るさ（ニュートラルグレー）レベル(0%、5%、50%、および100%)それぞれについて表示されます。これらのレベルを調整することにより、出力で各色がどのように表現されるかを制御することができます。例えば、印刷出力のハイライトで黄色が強すぎた場合は、0%値と5%値（またはどちらか）のY値を下げることができます。多くの場合、必要になるのはこういったレベルの詳細情報です。
7. **ドットゲイン補完**設定では、既存プロファイルのデフォルトドットゲイン設定を補正します。この設定は相対的なものであり、正負どちらの値も取ることができます。一般に、この値は印刷業者に応じて異なります。正しい設定値を見つけるには若干の試行錯誤が必要になるでしょう。
8. これ以上詳細な調整が必要な場合は、**詳細設定**見出しの隣にある小さい三角マークをクリックします。

9. **詳細設定**セクションには、より詳細なグレーレベルの値設定が含まれます。これらの設定には、**アウトプットプロファイル**ウィンドウの標準セクションで調整可能だったものと同じ4つのレベルも含まれます。
10. このウィンドウで設定が完了したら、**保存**ボタンをクリックしてその設定を新しいプロファイルに適用します。

サムネイルウィンドウ

はじめに

サムネイルウィンドウは、3f ボタンを使って現在選択しているフォルダに保存されている各スキャンのプレビュー画像を表示し、ライトテーブルと同様の機能を果たします。**フォルダ**ボタンをクリックしてサムネイルに使用したいフォルダを選択してください。フォルダの名前は（My Picturesなど）**サムネイル**ウィンドウのタイトルバーに表示されます。この**サムネイル**ウィンドウを使うと、仕事内容の見直し、メイン**FlexColor**ウィンドウへの画像のロード、および標準TIFFファイルでの画像保存が行えます。

サムネイルウィンドウを開く

サムネイルウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-8を押すか、メインFlexColorウィンドウで**サムネイル**ボタンをクリックするか、あるいは**ウィンド**ウメニューから**サムネイル**を選択します。

ファイルとファイル形式

スキャン3fボタンを使用してスキャンする時、画像はスキャンされ3fファイルとして現在選択しているフォルダに保存され、メイン**FlexColor**ウィンドウのプレビューセクションに表示されます。

詳細は、本書10ページの「3fファイル形式」を参照してください。**サムネイル**ウィンドウには現在選択中のフォルダに保存されている3fファイルがすべて表示され、メイン**FlexColor**ウィンドウのプレビューセクションのファイルは、どれでもロードすることができます。

切り取り設定と画像設定の保存

3fファイルがメインFlexColorウィンドウへロードされている間に**FlexColor**の各種ツールで新しい設定を行っても、メイン**FlexColor**ウィンドウで**保存**をクリックしない限り、その新規設定は保存されません。保存をクリックすると、現在適用されている切り取り、モード、色、および画像処理の設定とともに、現在の画像のTIFFまたはJPEGファイルが作成されます。また、この設定は現在の3fファイルに関する**情報**ウィンドウの**ヒストリー**リストにも保存されます。

詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。**サムネイル**ウィンドウからメイン**FlexColor**ウィンドウへファイルをロードすると、その3fファイルに現在デフォルトで選択されている切り取り、モード、色、および画像処理の設定もすべてFlexColorにロードされます。

サムネイルウィンドウの使用

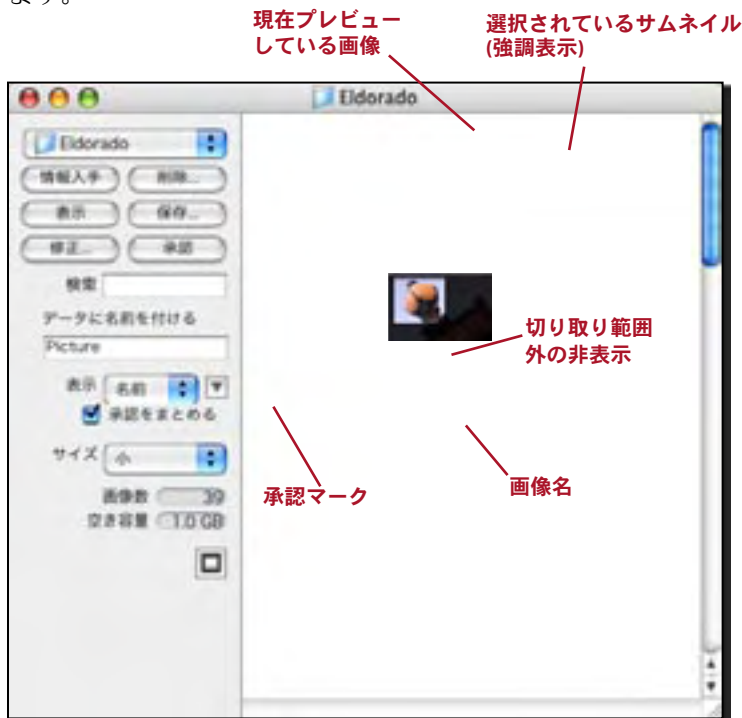
サムネイルの表示方法

サムネイルウィンドウには、2つのサムネイル表示オプションがあります。

ソート　このポップアップメニューで、サムネイルを**日付**（作成日）順にソートするか、**名前**順にソートするか選択します。ソート順序を逆にするには、ポップアップ右側の降順/昇順ボタンをクリックします。…および承認ステータス別チェックボックスを選択すると、サムネイルを**承認**ステータス別にソートすることもできます。

サイズ　このポップアップメニューでは、**サムネイル**ウィンドウに表示されるサムネイルのサイズを選択できます。

切り取り範囲外を隠すボタン: このボタンを使うと、各画像について、現在切り取り範囲がある場合、その範囲外を非表示にできます。

サムネイルウィンドウには各キャプチャに関する情報が表示されます。

画像の選択

サムネイルウィンドウでは、複数の画像を選択することができます。いったん画像を選択すると、その画像は強調表示されます。選択した画像は、名前変更、削除、表示または保存が行えます。画像の選択操作には次のような各種テクニックがあります。

- サムネイルを一度クリックして、単一の画像を選択。
- Cmdキーを押しながらクリックして、複数の画像を選択。
- Shiftキーを押したままクリックして、一列に並んだ複数の画像を選択。
- cmd-aを押すか、**編集**メニューから**すべて選択**を選択して、**サムネイル**ウィンドウ内の全サムネイルを選択。

選択した画像の処理

サムネイルウィンドウには、選択して強調表示させた画像を処理するため、以下のコマンドが含まれています。

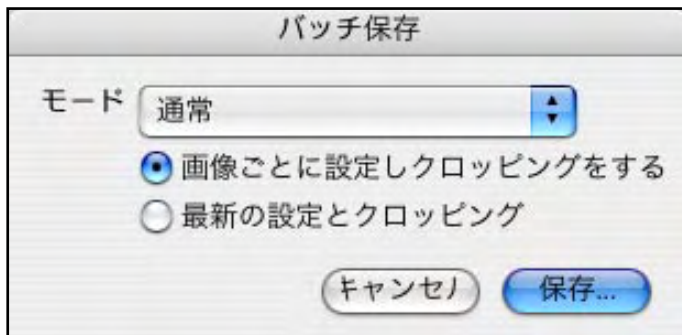
情報を見る　**情報**ウィンドウを開きます。 このウィンドウには、サイズ、解像度、フレームサイズなど画像に関する種々の情報と、著作権などに関する各種情報が含まれています（情報ウィンドウは、ファイルメニューから**情報を見る**を選択するか、ショートカットキーcmd-iを押しても開くことができます）。なお、**情報**ウィンドウは選択したファイルそれぞれについて表示されます。詳細は79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。

削除　現在選択されている画像を削除します。削除を選択すると、確認のためのダイアログが表示されます。画像はハードディスクからも永久に削除されます。コマンド（cmd）キーを押しながら削除をクリックすると、選択された画像は確認ダイアログが表示されることなく**削除**されます。

画像は、キーボードのdelキーまたはcmd-delキーを使って削除することもできます。

表示　現在選択されている画像をメイン**FlexColor**ウィンドウで表示し、閲覧および処理することができます（画像はサムネイルをダブルクリックしても開くことができます）。選択したファイルにデフォルトで選択されている切り取り、モード、色、および画像処理の設定も、同時にFlexColorにロードされます。このボタンは、単一の画像を選択した場合のみ利用可能になります。

なお、サムネイルをダブルクリックするか、**表示**ボタンをクリックすると、直ちにプレビューウィンドウで低解像度の画像が表示されますが、その間高解像度プレビューがバックグラウンドで行われ、終了と同時にプレビューが更新されます（通常20秒から30秒）。

保存　このボタンにより、現在選択している画像がすべて保存されます。このボタンをクリックすると、**バッチ保存**ウィンドウが表示され、すべてのファイルに対し、各ファイルで保存されている**個別設定**と**切り取り**を使って保存するか、（メイン**FlexColor**ウィンドウ内の現在のプレビュー表示どおり）**現在の設定**と**切り取り**を適用するか尋ねられます。

どちらかの設定を選んだのち、モードポップアップメニューを使って次の保存オプションのうちひとつを選択します。

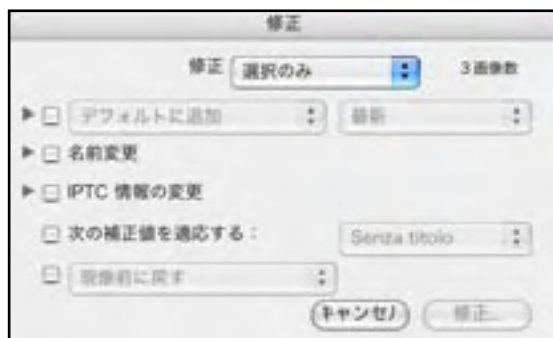
通常: 選択した画像をTIFFファイルとして保存。

プレビュー: 選択した画像をプレビュー用に低解像度TIFFファイルとして保存。

レイヤ: 選択した画像をPhotoshopファイルで (.psd) 複数レイヤとして保存。

適切な保存オプションを選択したら、**保存**ボタンをクリックします。

選択画像の修正

サムネイルウィンドウから各画像の様々な情報を見ることができます。新しいセットアップの履歴への追加、デフォルトセットアップの選択、メタデータの入力など、画像修正を可能にする設定を提供します。

こうした設定の作成には2通りの方法があります。**情報**ウィンドウの使用、あるいは**修正**ウィンドウの使用で、ふたつとも**サムネイル**ウィンドウから利用できます。各ウィンドウの提示するオプションは少々異なります。一般に、**情報**ウィンドウは個々の画像の処理に使われ、**修正**ウィンドウは複数の画像を一度に修正するために使われますが、**修正**ウィンドウを単一画像の処理に使用することもあります。本セクションでは**修正**ウィンドウとその設定を説明します。情報ウィンドウの詳細については79ページの「情報ウィンドウ」を参照してください。

セットアップや履歴の修正

各3fファイルには最低ひとつのセットアップが含まれています。ファイルを最初にスキャンしたときに使用されたセットアップです。3fファイルからエクスポートするたびに、エクスポートに使用されたセットアップが履歴に追加されます。履歴に複数のセットアップが存在する場合、そのひとつがデフォルトセットアップとなり、サムネイルに適用され、メインFlexColorウィンドウでファイルが開かれるとロードされます。

修正ウィンドウを使用して、新規セットアップの追加や既存セットアップの修正をしたり、新規セットアップをデフォルトにすることができます。その方法を以下に説明します。

1. 以下のいずれかを行って使用したいセットアップを作成します。
   - 対称となる3f画像をメインFlexColorウィンドウにロードし、満足のいくセットアップが得られるまで画像サイズ、位置、補正制御を調整します。このセットアップが「現在の」セットアップとなります。
   - 現在のセットアップを上記のように作成し、新規保存セットアップとして保存します（詳細は36ページの「セットアップの管理」を参照）。
   - 既存の保存されたセットアップのリストを見て、画像に適用したいセットアップを決定します。
2. **サムネイル**（ライトテーブル）ウィンドウに行き、修正したい画像(複数可)を選択します。**修正**ウィンドウでは修正を全画像あるいは全承認画像に適用することもできます。その場合はこの時点でどの画像を選択しても変わりません（下記参照）。
3. **サムネイル**ウィンドウの**修正**ボタンをクリックして**修正**ウィンドウを開きます。

4. 修正を適用する領域に合うように、**修正**ポップアップメニューを設定します。次のオプションが利用できます。
   - **選択のみ: 修正**ウィンドウを開いたときに選択した画像のみに修正設定を適用。

- **すべて:** サムネイルウィンドウで開いている全画像に修正を適用（すなわち現在のフォルダにある3f画像すべて）。
- **承認画像: 修正**ウィンドウを開いたときにどの画像を選択したかにかかわらず、承認された全画像に修正設定を適用。

5. **修正**ウィンドウの上部にあるチェックボックスをチェックします。これでセットアップ修正オプションが使用可能になります。
6. セットアップ修正設定の一部が見えないときは、チェックボックスの横にある三角マークをクリックしてください。
7. 最初のポップアップメニューを使用して、新しいセットアップを領域内のファイルに適用します。以下のいずれかを選んでください。
   - **セットアップを追加:** 新しいセットアップを履歴に追加します。現在のデフォルトは変更せずに保持します。
   - **デフォルトに追加:** 新しいセットアップを履歴に追加しデフォルトにします。現在のデフォルトはまだ履歴に存在し、変更されるまでそのまま残ります。
   - **デフォルトセットアップを更新:** 新しいセットアップでデフォルトを完全に置換えます。古いデフォルトは履歴から消滅します。
8. 次のポップアップメニューで領域の各ファイルに適用するセットアップを選びます。以下のいずれかを選んでください。
   - **現在のセットアップ:** メイン**FlexColor**ウィンドウに表示されているプレビュー画像に適用されているセットアップをすべて使用。
   - **標準セットアップ:** FlexColorに含まれる全標準セットアップが、ネガとポジに分類されリストアップされます。
   - **ユーザー定義:** メニューの下部に保存されている各カスタムセットアップが表示されます。
9. 画像の名前や IPTC情報を変更したい場合は、この時点で適切なボックスをチェックし、本セクションの説明に従って設定を作成することもできます。ボックスをひとつまたはふたつともクリアして変更を防止します。
10. **修正**をクリックして設定を適用します。

画像の名前変更

各3fファイルにはスキャン時に作成された設定により名前が付けられています。バッチスキャンの後などでは、各画像に説明的な名前を与えることが必要になります。

修正ウィンドウを使用して、以下のように画像（複数可）の名前を変更することができます。

1. **サムネイル**（ライトテーブル）ウィンドウに行き、修正したい画像(複数可)を選択します。**修正**ウィンドウでは修正を全画像あるいは全承認画像に適用することもできます。その場合はこの時点でどの画像を選択しても変わりません（下記参照）。
2. **サムネイル**ウィンドウの修正ボタンをクリックして**修正**ウィンドウを開きます。
3. 修正を適用する領域に合うように、**修正**ポップアップメニューを設定します。次のオプションが利用できます。
   - **選択のみ: 修正**ウィンドウを開いたときに選択した画像のみに修正設定を適用。
   - **すべて: サムネイル**ウィンドウで開いている全画像に修正を適用（すなわち現在のフォルダにある3f画像すべて）.
   - **承認画像: 修正**ウィンドウを開いたときにどの画像を選択したかにかかわらず、承認された全画像に修正設定を適用。
4. **修正**ウィンドウの**名前変更**チェックボックスをチェックします。これで名前変更オプションが使用可能になります。
5. 名前変更設定の一部が見えないときは、チェックボックスの横にある三角マークをクリックしてください。
6. 以下を設定します。
   - **名前:** 新しいルート名を入力します。
   - **以下の番号から連番に:** 複数の画像を選んだ場合、各画像には入力したルート名プラス連番が与えられ、独自のファイル名を形成します。最初の画像の番号をここに入力します。
7. 画像のセットアップや IPTC情報を変更したい場合は、この時点で適切なボックスをチェックし、本セクションの説明に従って設定を作成することもできます。ボックスをひとつまたはふたつともクリアして変更を防止します。
8. **修正**をクリックして設定を適用します。

ニュートラル化と処理前に戻す

修正ウィンドウのこのふたつの設定はデジタルカメラ画像にのみ該当します。スキャン画像処理の際は、無効（グレー表示）になります。

画像メタデータの変更

各3fファイルは、署名欄、版権詳細、その他キーワードなどのフィールドで構成されるメタデータ（ITPC値とも呼ばれる）を持つことができます。これらを使用すると、検索可能な画像のデータベースが簡単に作成できます。最初に画像をスキャンする際に初期値がいくつか与えられていますが、各画像を独自に識別するために初期値を更新する必要が生じることがあります。

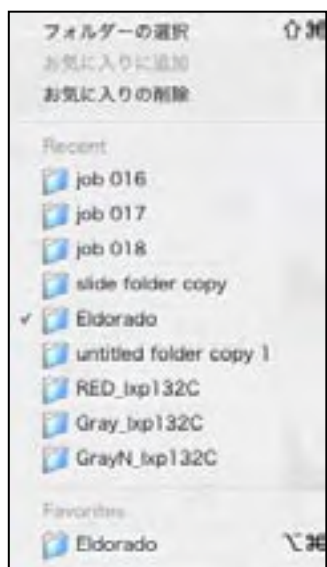
修正ウィンドウを使用して、以下のように画像（複数可）のITPCタグを変更することができます。

1. **サムネイル**（ライトテーブル）ウィンドウに行き、修正したい画像(複数可)を選択します。（修正ウィンドウでは修正を全画像あるいは全承認画像に適用することもできます。その場合はこの時点でどの画像を選択しても変わりません。）
2. **サムネイル**ウィンドウの**修正**ボタンをクリックして**修正**ウィンドウを開きます。
3. 修正を適用する領域に合うように、**修正**ポップアップメニューを設定します。次のオプションが利用できます。
   - **選択のみ: 修正**ウィンドウを開いたときに選択した画像のみに修正設定を適用。
   - **すべて: サムネイル**ウィンドウで開いている全画像に修正を適用（すなわち現在のフォルダにある3f画像すべて
   - **承認画像: 修正**ウィンドウを開いたときにどの画像を選択したかにかかわらず、承認された全画像に修正設定を適用。
4. **修正**ウィンドウの**IPTC情報変更**チェックボックスをチェックします。これでIPTCオプションが使用可能になります。
5. IPTC設定の一部が見えないときは、チェックボックスの横にある三角マークをクリックしてください。

6. 以下を設定します。
   - **署名欄:** たいていオリジナルの3fファイルを作成したスキャナーオペレータの名前になっていますが、このフィールドを他の目的で使用する必要が生じることもあります。新規入力して領域内の全ファイルを更新するか、フィールドを空白にして現在の署名値のままにします。
   - **版権:** このフィールドは版権の詳細を記述するもので、通常撮影者または業者の名前プラス年が使用されます。新規入力して領域内の全ファイルを更新するか、フィールドを空白にして現在値のままにします。
7. 画像データベースを構築している場合は、キーワードが重要になります。ユーザーがあるキーワードを使用してデータベースを検索すると、キーワードリスト中にそのワードを含む全画像がみつかります。（ファイル名やその他のIPTCフィールドにサーチワードを含む画像が、検索結果として表示されることもあります。）以下を行ってキーワードリストを作成します。
   - **追加**をクリックして新しいキーワードを追加します。小さなダイアログウィンドウが開くので、ワードをキー入力します。
   - ワードを削除するには、**キーワード**リストから該当するワードを選び、**削除**ボタンをクリックします。
   - 領域内のファイルに既に追加された全キーワードを維持するには、現在の**キーワードに追加**チェックボックスをチェックします。既存キーワードを削除し、新規作成したリストで置換える場合は、このチェックボックスをチェックしないでください。
8. 画像のセットアップや名前を変更したい場合は、この時点で適切なボックスをチェックし、本セクションの説明に従って設定を作成することもできます。ボックスをひとつまたはふたつともクリアして変更を防止します。
9. **修正**をクリックして設定を適用します。

フォルダーの選択とお気に入りの設定

サムネイルウィンドウは選択されたフォルダに保存されている各3fファイルのサムネイル画像を表示します。これを使用して、ネットワーク共有などコンピュータで利用できるあらゆるフォルダをみることができます。**サムネイル**ウィンドウによる画像の表示、編集には、コンピュータから画像をスキャンする必要はありません。スキャナーを取付ける必要もありません。

サムネイルウィンドウの左上の端にあるポップアップメニューが、現在選択されているフォルダ名を表示し、エントリを提供します。このエントリを使って、ファイルブラウザあるいは便利な最近のお気に入りフォルダリストから別のフォルダを選択することができます。

ポップアップメニューの内容は以下の通りです。

- **フォルダーの選択:** ファイルブラウザを開きます。コンピュータを使用してフォルダを選ぶことができます。
- **お気に入りに追加:** 現在選択されているフォルダを、メニューの下部にあるお気に入りリストに追加します。現在のフォルダが既にお気に入りになっている場合は、このエントリは利用できません。

- **お気に入りの削除:** 現在選択されているフォルダを、メニューの下部にあるお気に入りリストから削除します。現在のフォルダが既にお気に入りになっていないと、このエントリは利用できません。
- **最近使ったフォルダ: サムネイル**ウィンドウを使って最も最近表示したフォルダのリストが表示されます。
- **お気に入り:** お気に入りに追加エントリを使ってお気に入りリストに追加した各フォルダを表示します。

サムネイルの印刷

サムネイルウィンドウの内容は、印刷することができます。

- ウィンドウ内で画像をクリックし、希望するビューが選択されていることを確認してください。
- **ファイル-> 印刷**を選択します。

情報ウィンドウ

はじめに

情報ウィンドウには、現在選択しているファイルとその内容、適用されている設定の全履歴、および画像データベースをサポートする版権情報やキーワードなど付加が可能なユーザ独自のファイルデータ（IPTCタグを含む）に関する種々の情報が含まれます。

情報ウィンドウの使用

情報ウィンドウを開く

情報ウィンドウを開くには、画像をロードした際、メイン**FlexColor**ウィンドウで**ファイル**メニューから**情報を見る**を選択するか、ショートカットキーcmd-Iを押します。

サムネイルウィンドウでは、１つ以上のサムネイルを選択して**情報を見る**ボタンをクリックすることにより、選択した各ファイルについて**情報**ウィンドウを表示させることができます。

情報ウィンドウの上部に表示される基本的なファイル情報には、3fファイルの名前、作成日、およびファイルサイズが表示されます。ファイル名の変更は、新しい名前を**ファイル名**フィールドにキー入力するだけで行えます。表示されるサムネイル画像は、ヒストリーリストにデフォルトとして指定されている設定を使って作成されます。

一般情報/ヒストリー

一般情報セクションには、次の情報が含まれます。

修正日: 最も最近の修正日。

フレーム: ファイルスキャン時に使用されたオリジナルホルダーのフレームサイズ。

PPI: ファイルの解像度。

デバイス: 画像スキャンに使用されたHasselbladデバイス名。以下のフィールドには、ユーザ独自のファイル情報を入力します。

署名欄: 通常撮影者の名前。**環境設定**ウィンドウ（53ページを参照）の3fタブで**デフォルト情報**セクションの**署名欄**フィールドに情報が入力されている場合は、スキャン3f機能を使用してスキャンするたびに、入力内容が自動的にここへ追加されます。

版権: 著作権情報。

環境設定ウィンドウ（54ページを参照）の3fタブで**デフォルト情報**セクションの**版権**フィールドに情報が入力されている場合は、スキャン3f機能を使用してスキャンするたびに、入力内容が自動的にここへ追加されます。

キーワード: 画像に関するユーザ独自のキーワードを追加。

キーワードは、画像データベースから画像を検索する際に利用できます。

表題: 通常画像内容の説明。

ヒストリーリストを表示するには、ポップアップメニューから**ヒストリー**を選択します。

ヒストリーリストには、新しい設定が画像に適用されるたび、またその設定で作成される各TIFFファイルについて、エントリ（名前、日時、およびファイルサイズなど）が追加されます。リスト下のボタンには、次のものがあります。

表示: エントリを選択し、ボタンをクリック（またはエントリをダブルクリック）して、**FlexColor**プレビューウィンドウに画像をロードします。これにより、画像は対応するエントリが生成された際とまったく同じ設定でロードされます。エントリ左の目のアイコンは、現在ロードされているファイルを示しています。

削除 : エントリを削除します。

デフォルトの選択: このボタンを使うと、ファイルの開閉、保存、エクスポートに適用したい設定を伴ったエントリを選択できます。左側のチェックマークは、デフォルトとして現在選択されているエントリを示します。デフォルトとして選択されているエントリの設定は、**情報**ウィンドウと**サムネイル**ウィンドウに表示されるサムネイルにも適用されます。

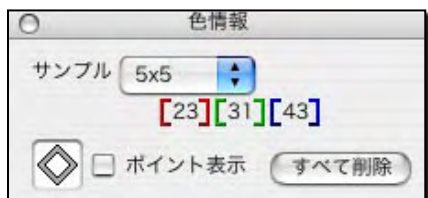
現在の設定を追加: **FlexColor**プレビューに現在表示されている画像の設定を、エントリとしてリストに追加します。

色情報ウィンドウ

はじめに

色情報ウィンドウでは、画像内の任意点におけるピクセル値を読み取ることができます。また、固定**サンプルポイント**を5つ設定して全ポイント値を同時に読み取ることにより、他の設定の効果をモニタすることもできます。

色情報ウィンドウを開くには、ショートカットキー**cmd-9**を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウで**色情報**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューから**色情報**を選択します。

色情報ウィンドウでの値読み取り

色情報ウィンドウを使用するには、マウスポインタをプレビュー画像上へ移動します。すると、画像内で選択した位置におけるピクセルの明るさがウィンドウの数値フィールドに示されます。次の点に注意してください。

- RGB表示の場合、値はピクセルの明るさの値 (0～255、白=255, 255, 255) を示します。
- CMYK表示の場合、出力値はインクパーセント値 (0～100、白=0, 0, 0, 0) を示します。ただし、入力値は上記のとおりRGB表示のままです。

この**サンプル**ポップアップメニューは、カラーピッカー（マウスポインタ）により抽出された領域のサイズを示します。**色情報**ウィンドウに表示される数値は、サンプル領域内の値の平均を示しています。設定としては1×1ピクセル、3×3ピクセル、または5×5ピクセルのいずれかを選択できます。

固定サンプルポイントの設定

固定**サンプルポイント**は5つ設定でき、これにより実行する設定が画像の主要領域に及ぼす効果をモニタできます。プレビュー画像内では、各サンプルポイントにつき、ひし形のマークと番号が示されます。**色情報**ウィンドウでは、各サンプルポイントに関する現在値がそれぞれの番号の横に表示されます。

サンプルポイントを設定するには、**サンプルポイント**ボタンをクリックします。 これによりボタンがアクティブになりグレー表示されます。その状態で、画像内の希望する位置へポインタを移動してクリックします。すると、プレビュー画像の選択した位置に番号の付いたひし形マークが表示されます。サンプルポイントには以下の操作が行えます。

- 既存の**サンプルポイント**を移動するには、サンプルポイントボタンをクリックしてグレー表示することによりサンプルポイントピッカーをアクティブにし、次にサンプルポイントを目標位置へクリック&ドラッグします。
- 既存のサンプルポイントを削除するには、サンプルポイントピッカーをアクティブにし、削除するサンプルポイントをクリックしたのちバックスペースキーを押します。
- 既存のサンプルポイントを維持しつつプレビューで非表示にするには、**ポイント非表示**チェックボックスをクリックします。サンプルポイントを表示または編集するには、このチェックボックスを再度クリックして選択を解除します
- プレビューからすべてのサンプルポイントを削除するには、**すべて削除**をクリックします。

ヒストグラムウィンドウ

はじめに

ハイライト点とシャドウ点を設定する最も簡単な方法は、メイン**FlexColor**ウィンドウの**自動**階調範囲ボタンを使うことです。ただし、この自動機能で望ましい結果が得られない場合もあります。**ヒストグラム**ウィンドウのカラーピッカーとスライダには、ハイライト点とシャドウ点の微調整に必要なツールが用意されています。

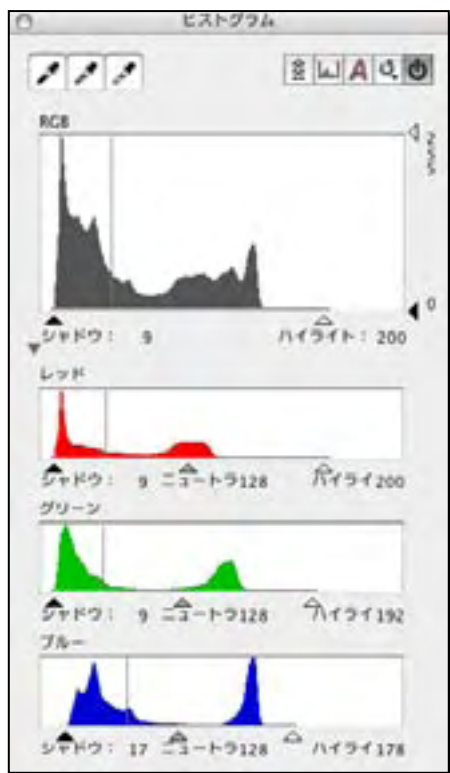
- ハイライト点とは、それを越えるすべての入力インプットが白として出力される明るさです（**セットアップ**ウィンドウの**ドット**タブシートに値を設定済みでない限り、通常は255。 詳細は45ページの「ドットタブ」を参照）。
- シャドウ点とは、それ以下のすべての入力インプットが黒として出力される明るさです（**セットアップ**ウィンドウの**ドット**タブシートに値を設定済みでない限り、通常は0。詳細は45ページの「ドットタブ」を参照）。

これらの設定は強力な効果を画像にもたらすため、細心の注意が必要です。多少時間をかけて試行錯誤してみてください。またプレビューを見て、これらの設定がいかに画像に影響するか確認してください。これらの制御を行った後、画像を何枚か保存して、詳しく見比べ、使用する設定の種類についてメモを取り、比較用の校正刷りを作成するとよいでしょう。

デジタル画像を扱ったことがない場合は、これらの制御オプションが画像に及ぼす影響について、スキャナーオペレータやデジタル写真家など、熟練した専門家に相談することをお勧めします。校正刷り評価の際、どういった点に注意すべきか尋ねてください。また、デジタル写真、デジタル画像、スキャニング、および色再現に関する書籍も参考にしてください。

ヒストグラム表示

ヒストグラムウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-2を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの**補正**セクションにある**ヒストグラム**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューからヒストグラムを選択します。

ヒストグラムウィンドウには、画像の階調範囲を示すグラフが含まれます。このグラフには、各明るさ（横軸）におけるピクセル数（縦軸）が表示されます。値0（黒）のピクセルは左側に表示され、値255（白）のピクセルは右側に表示されます。

カラーピッカー

カラーピッカーを使うと、画像のピクセルをクリックしてハイライト点、シャドウ点、およびニュートラル点を設定できます。使用法の詳細は89ページの「**ヒストグラム**カラーピッカー」を参照してください。

スライダ

スライダをクリック＆ドラッグすると、ハイライト点、シャドウ点、最小出力値、および最大出力値を設定することができます。最小出力値と最大出力値は、**セットアップ**ウィンドウの**ドット**タブにおける設定を反映します。これらの設定に関する詳細は、45ページの「ドットタブ」を参照してください。

スライダは、選択してから矢印キーを押しても移動できます。ctrl キーを押しながらこの操作をすると、より大きな増分で移動できます。ctrl-タブを使うとスライダ間を移動できます。

オリジナルの色かぶりをハイライトに保持: ハイライトピッカーはデフォルトで選択されたポイントを純白に設定し、画像のハイライト中の色かぶりを修正します。ここをクリックして、各色チャネルで同じになるようハイライト点をリセットし、オリジナルハイライト色かぶりを保持します。

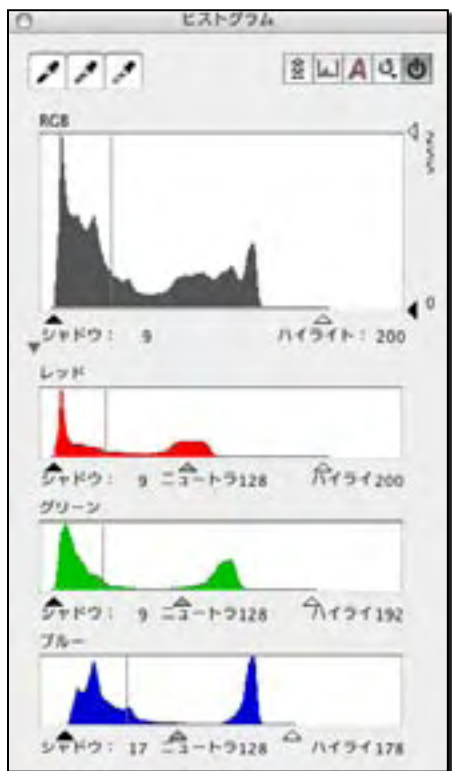
出力ヒストグラムを表示: ヒストグラムウィンドウは、スキャナーでキャプチャされたヒストグラムをデフォルトで表示します。ヒストグラムにはハイライト点とシャドウ点を示す矢印があります。出力では、二点間の明るさはダイナミックレンジの全域 (0から255) に対応するよう分散されます。このボタンを押すと (グレー)、出力ヒストグラムが表示されます。押さないときは (白)、入力ヒストグラムとハイライト/シャドウインジケータが使用されます。

自動補正: ここをクリックすると、画像に自動補正アルゴリズムを適用します。FlexColorが画像を分析し、推奨されるハイライト点、シャドウ点、ニュートラル点を設定します。

設定の適用: このボタンを押すと（グレー）、補正設定がプレビューと最終画像に適用されます。押さないときは(白)、設定は保持されますが画像には適用されません。

リセット/プリセット: ここをクリックすると、ロードされたセットアップまたはプリセットからの設定にリセットします。クリックして押したままにすると、メニューが開き、プリセットの選択、保存、削除ができます。このメニューの使用方法についての詳細は、97ページの「プリセットの使い方」を参照してください。

色チャネルの表示/非表示

この三角マークをクリックすると、色チャネルごとにヒストグラムを分けて表示できます。その各々につき、ハイライト値とシャドウ値を個別に調整することができます。

ヒストグラムカラーピッカー

ヒストグラムカラーピッカーでは、プレビュー画像で任意のピクセルを指定し、そのピクセルの値に基づいたハイライト点、ニュートラル点、またはシャドウ点を割り当てることができます。ハイライトカラーピッカーもシャドウカラーピッカーも、階調範囲を選択することにより画像の明るさとコントラストに影響を及ぼします。

カラーピッカーを使うには、次の操作を行います。

1. 希望する階調範囲設定のタイプに合ったスポイトボタンをクリックします。すると、マウスポインタが選択したスポイトに変わります。

2. マウスポインタをプレビュー画像へ移動します。 メイン**FlexColor**ウィンドウの**色**セクションにピクセル値が表示されることに注意してください。なお、この**色**セクションに表示される数値は、（ヒストグラム設定およびグラデーション設定後の）現在値です。

   [47][97][52][37]

3. **詳細**ウィンドウは個々のピクセルを見るのに役立ちます。**詳細**ウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-5を押すか、**ウィンドウ**メニューから**詳細**を選択するか、メイン**FlexColor**ウィンドウの**拡大表示**セクションにある**詳細**ボタンをクリックします。

   詳細ウィンドウの拡大表示機能を使うには、**拡大表示**ボタンをクリックします。ピクセルセレクタのアウトラインがウィンドウ中央に表示されることに注意してください。

4. プレビュー画像でスポイトの先を適切なピクセル上に移動します。

- ハイライト点を選択する際は、白で印刷したいオブジェクトを画像から選択します。白にする可能性のあるいくつかの点でピクセル値を確認し、その中から最適な点を選びます（通常は、任意色で最大値255に達していない最も明るい点がこれに当たります）。選択したピクセルより明るいピクセルはすべて白く「飛ぶ」ことになります。

- シャドウ点を選択する際は、黒で印刷したいオブジェクトを画像から選択します。黒にする可能性のあるいくつかの点でピクセル値を確認し、その中から最適な点を選びます（通常は、任意色で最小値0に達していない最も暗い点がこれに当たります）。選択したピクセルより暗いピクセルはすべて黒く「潰れる」ことになります。
- ニュートラル点を選択する際は、ニュートラル（グレー）にしたいオブジェクトを画像から選択します。これにより、画像の明るさを変えることなく色かぶりだけを処理することができます。最良の結果を得るには、露出範囲の中間に近い点を選択します（RGBピクセル値が約150の点など）。

5. 目標位置をクリックします。ハイライト、シャドウ、またはグレーの値は、そのピクセルについて情報セクションに表示された値で再割り当てされます。画面表示は即時更新されます。
6. **詳細**ウィンドウと**色**セクションを使って、プレビューを調べます。白く「飛んで」しまっている（値255の）領域がないか、またシャドウ領域でディテールが「潰れて」いないか、調べてください。設定は、**編集-> 取り消し**を選択するか、ショートカットキー**cmd-z**を押すことにより元に戻すことができます。

グラデーションウィンドウ

はじめに

このセクションで説明する機能は、通常操作では必ずしも必要とされないものです。これらの機能は出力画像に微調整を行うもので、明るさおよびコントラストを変更して印刷条件を補完します。ハイライトとシャドウの高度な制御と同様、**グラデーション**設定の使用時には細心の注意が必要です。多少時間をかけて試行錯誤してみてください。またプレビューを見て、グラフのカーブ（曲線）がいかに画像に影響するか確認してください。設定後、画像を何枚か保存して、詳しく見比べ、使用する設定の種類についてメモを取り、比較用の校正刷りを作成するとよいでしょう。

グラデーションウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-2を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの色**補正**セクションにある**グラデーション**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューからグラデーションを選択します。

グラデーションウィンドウには、**コントラスト、明るさ、ガンマ、**および**シャドウ階調**用のスライダが含まれています。入力される明るさ（横軸）と出力される明るさ（縦軸）のプロットであるグラデーションカーブも含まれています。このカーブは、**シャドウ階調**スライダの下にある小さい三角マークをクリックして表示、非表示の切り替えができます。**グラデーション**ウィンドウの

カーブとスライダを使って行う設定は、すべて現在のセットアップに保存されます。コントラスト、明るさ、ガンマ、およびシャドウ階調の設定は、**セットアップ**ウィンドウの**コントラスト**タブを使っても調整できます。

スライダの使用

スライダを使うと、画像のコントラスト、明るさ、ガンマやシャドウ階調をすばやく簡単に調整できます。これらの調整は画像に影響を及ぼしますが、前記の三角マークをクリックした場合、ウィンドウ下部に表示されるグラデーショングラフには反映されません。

スライダは次のように動作します。

- **コントラスト**: この制御オプションは画像のコントラストに影響します。これが正の値の場合は、ハイライトとシャドウ領域でコントラストが圧縮され、画像全体のコントラストが増加します。負の値の場合は、中間色調でのコントラストが減少しますが、階調範囲の極値における鮮明度が改善されます。この制御オプションは容易に使えますが、カーブを使った場合に比べ精度が落ちます。
- **明るさ**: この制御オプションは、画像全点の明るさに影響します。正値の場合は画像が明るくなり、負値の場合は画像が暗くなります。この制御オプションは容易に使えますが、カーブを使った場合に比べ精度が落ちます。
- **ガンマ**: ガンマ設定では、事前定義されたグラデーションカーブが適用されます。ただし、標準的なグラデーションカーブと異なり、ガンマ設定では、与えられたガンマ設定でスキャナー用に補正した色管理プログラムが使えるよう、厳密な制御が行われます。デフォルトは2.0です。ガンマ設定値を上げると、画像は明るさを増し、暗色領域でより多くのディテールが見えるようになります。設定値を下げると、その逆が起こります。
- **シャドウ階調**: この設定では、画像のシャドウ領域で目に見えるディテールのレベルを左右する複雑なアルゴリズムが制御されます。このスライダを高くすると、シャドウ領域でより多くのディテールが見えるようになります。ただし、同時に画像の他の領域におけるコントラストは減少します。設定値をゼロにすると、実質的にこの機能は無効になります。

設定の適用あるいはリセット/プリセットについては88ページを参照してください。

スライダはすべての色に均等な効果を及ぼします。グラデーションカーブの上にある色チャネルポップアップメニューの設定には影響されません。

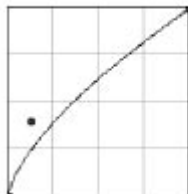
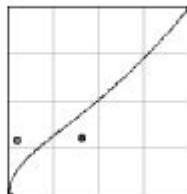
グラデーションカラーピッカーの使用

グラデーションウィンドウ左下隅にある**グラデーションカラーピッカー**を使うと、プレビューで選択したポイント(位置) の明るさでカーブに引力点を配置することができます。スポイトアイコンをクリックしてグラデーションカラーピッカーをアクティブにしたのち、プレビューで引力点配置用の位置をクリックします。カーブの使用法に関する詳細は、次のセクションを参照してください。

カーブの使用

グラデーションカーブは、入力される明るさ（横軸）と出力される明るさ（縦軸）をプロットしたものです。このカーブでは最終画像における明るさとコントラストを細かく制御し、各色チャネルを個々に制御することも可能です。このカーブは、**シャドウ階調**スライダの下にある小さい三角マークをクリックして表示、非表示の切り替えができます。

このカーブを調整するには、グラフをクリック＆ドラッグします。新しい点をクリックするたびに新しい引力点が作成され、カーブはその重心に引かれて移動します。このシステムではカーブは必ず滑らかになり、プレビュー画像は変更を反映するよう更新されます。

以下に、グラデーションカーブを調整する際、役立つ指針をいくつか示します。

- カーブに引力点を加えるには、グラフの任意の位置をクリックするか、前セクションの説明に従いグラデーションカラーピッカーを使います。

- カーブから引力点を取り除くには、その点をクリックしてバックスペースキーを押します。
- ニュートラルな (デフォルトの) グラデーションカーブは、グラフの左下から右上へ延びる斜線です。
- (ハイライト値を変えずに) 画像の明るさを増すには、カーブをニュートラルより上にドラッグします。画像を暗くするには、ニュートラルより下へドラッグします。
- シャドウ、中間色調、またはハイライトのコントラストを落とすには、このカーブをそれぞれ左底部、中央部、または右上部でより平坦にします。
- シャドウ、中間色調、またはハイライトのコントラストを上げるには、このカーブをそれぞれ左底部、中央部、または右上部でより急勾配にします。
- グラデーションを単一の色チャネルで調整するには、グラデーションカーブ上のポップアップメニューを使います。選択可能なオプションには、**RGB、レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、**または**イエロー**があり、これらにより、画像の色を調整する非常に強力な方法が得られます。
- 色のバランスを変えずにグラデーションを調整するには、グラデーションカーブ上のポップアップメニューをRGBに設定します。
- グラデーションカーブに行う設定は、**セットアップ**ウィンドウに表示される全設定同様、すべてセットアップに保存されます。セットアップの選択、ロード、および保存方法は、36ページの「セットアップの管理」を参照してください。
- グラデーションカーブとスライダの全色チャネルですべての設定をニュートラルにするには、**リセット**ボタンをクリックします。この操作を行っても、他のFlexColor設定はまったく影響を受けません。

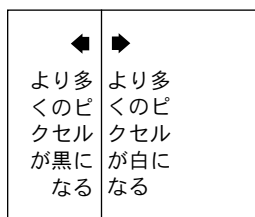
キーボードショートカット

グラデーションカーブでの作業中は、次の操作が行えます。

- ショートカットキー**ctrl-タブ**で、引力点間を移動します（引力点が複数ある場合）。
- 引力点を移動するには、引力点をマウスでドラッグするか、またはアクティブにして矢印キーで移動します。**ctrl**キーを押しながらこの操作をすると、より大きな増分で移動できます。
- マウスでの引力点ドラッグ中に**shift**キーを押したままにすると、引力点の移動を水平方向だけに制限できます。

- **alt**キーを押しながらカーブ領域でクリックすると、グリッド線の数を変更できます。

線画スキャン用のしきい値設定

FlexColorでは、**線画**モードでスキャンする際、各ピクセルが完全に黒か完全に白かどちらかである画像を作成するため、しきい値が適用されます。この場合、グラデーションカーブは単なる縦線になります。この線を左右に移動すると、しきい値が適用される入力レベルを調整できます。

この線をクリック＆ドラッグしてしきい値レベルを調整する場合、右に移動するとより多くのピクセルが黒になり、左に移動するとより多くのピクセルが白になります。

プリセットの使い方

グラデーションウィンドウやその他の画像補正ウィンドウには、プリセット/リセットボタンがあり、お気に入りの設定を保存したり、選択したプリセットやセットアップにツールをリセットすることができます。

全画像補正ウィンドウで、プリセット/リセットボタンは同じようにみえます。ボタンをいちどだけクリックすると、保存されたプリセットやセットアップに戻ります。クリックして押したままにすると、ポップアップメニューが開きプリセットオプションが選択できます（以下参照）。最初は、ロードされたプリセットがスキャン用に選択されたセットアップから抽出されます。他のプリセットを選択した場合は、プリセット/リセットボタンをクリックすると保存されたプリセット設定に戻ります。

ポップアップメニューには4つのセクションがあり、以下のオプションが利用できます。

- **プリセットの作成:** 現在のツール設定を保存します。するとウィンドウが開き、そこで新しいプリセットに名前を付けることができます。
- **削除:** カスタムプリセットがロードされている場合、このエントリが利用できます。現在のプリセットを削除するときに選択します（メニューにはチェックマークが表示されます）。
- **現在のセットアップ設定:** 上から二番目のセクションは現在のセットアップ名を表示します。このエントリを選択してそのセットアップに戻ります。
- **工場出荷時のプリセット:** 上から3番目のセクションは、現在の制御で利用できる工場出荷時のプリセットがある場合、その名前を表示します。通常、「デフォルト」と呼ばれるエントリをひとつ含み、制御をリセットし中立化します。エントリのひとつを選択して工場出荷時のプリセットを使用します。工場出荷時のプリセットはどれも削除できません。
- **カスタムプリセット:** メニューの最後のセクションは、現在のツール用に保存したプリセットがある場合、それをリストアップします。エントリのひとつを選択してカスタムプリセットをロードします。

このメニューで現在ロードされているプリセットにはチェックマークが付きます。プリセット/リセットボタンをいちどクリックすると、このプリセットがハードディスクから再ロードされます。

選択的な色補正

はじめに

画像には、単に色かぶりを取り除く以上の色制御が必要な場合があります。FlexColorに備えられた強力な選択的色補正機能を使うと、特定の色の外観を画像全体にわたり調整することが可能になります。

色補正ウィンドウを開く

色補正ウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-3を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの**補正**セクションにある**色補正**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューから色補正を選択します。

色補正ウィンドウの使用

選択的**色補正**を使用するには、次の操作を行います。

1. **ウィンドウ**メニューから**色補正**を選択するか、メイン**FlexColor**ウィンドウで**色補正**ボタンをクリックして**色補正**ウィンドウを開きます。

2. 色補正ウィンドウの右上部にある四角をクリックして、**色補正**カラーピッカーをアクティブにします。
3. 変更したい色をプレビュー画像内でクリックします。すると、その色が先ほどクリックした右上部の（補正前）カラーボックス内に表示されます。

そのピクセル値へのオフセットが、**R**、**G**、**B**、**C**、**M**、および**Y**フィールドにリストアップされます（これらの値はデフォルトですべてゼロに設定されています）。

4. ウィンドウ上部のポップアップメニューには、プレビューで選択した色に最も近い原色が表示されます。この色を調整することにより、選択した色に最も劇的な効果がもたらされます。ただし、表示されたものと異なる原色を使いたい場合は、ポップアップメニューから希望する別の原色を選択します。
5. 各色チャネルに提供された矢印ボタンおよび数値入力フィールドを使うと、他の色を追加または除去できます。正値の場合は各色が追加され、負値の場合は各色が除去されます。ポップアップメニューで選択した色を含むピクセルは、それに比例して調整されます。
6 画像全体の彩度を変更するには、**彩度**スライダを使います。これにより色相を変えることなく全色の強さを調整でき、正値または負値を設定すると、全色の強さがそれぞれ強く、または弱くなります。
7. 下部の四角には、プレビューで選択した色に加えた変更がもたらす効果が表示されます。このボックスに表示される色が希望通りになるまで、この設定を調整してください。

適用チェックボックスにも注意してください。このボックスがチェックされていると、色補正がプレビューと保存された画像に適用されます。設定を削除せずに色補正を無効にするには、チェックマークをはずしてください。このボックスは、クリックしてチェックマークを切り替えるようになっています。

リセットボタンは色補正設定をすべてニュートラルに戻します。**FlexColor**のほかの設定には影響を与えません。

色補正ウィンドウで行った設定は、**セットアップ**ウィンドウの**CC**タブで表示、編集することもできます。色補正設定は**セットアップ**ウィンドウの他の全設定とともに保存およびロードされるため、新しい**セットアップ**ファイルを逐次保存することにより、頻繁に使用する設定のライブラリを維持することができます。詳細は36ページの「セットアップの管理」を参照してください。

グラデーションウィンドウを使って画像を明るくすると、彩度が低下することに気付くでしょう。これを補うには、色補正ウィンドウで彩度を上げます。これにより画像は再び少し暗くなります。しかし、この設定を繰り返すと双方のウィンドウが極端な値に設定されることになりかねません。極端な値で設定を行うと、一般に画像の質は劣化します。

テクスチャーウィンドウ

はじめに

テクスチャーウィンドウには、**アンシャープマスク**フィルタと**FlexTouch**フィルタの双方が含まれます。

アンシャープマスクフィルタ

アンシャープマスクフィルタでは、鮮明なエッジに沿ってコントラストを増加するアルゴリズムが適用されます。アンシャープマスキングを行うと、特徴が鮮鋭になりますが、ノイズが持ち込まれ粒子が粗くなることによる画像の劣化も起こります。ほとんどの場合、ノイズは画像の暗色領域にまず現れます。

色ノイズフィルター設定

色ノイズフィルターは画像の色情報に基づいて作動し、色彩からの電気ノイズやフィルム粒子ノイズを除去します。画像によっては、最も暗く最も彩度の高い色において粒状のノイズが現れることがあります。

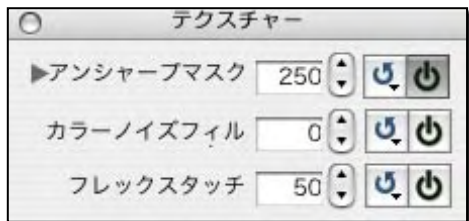
FlexTouch フィルタ

このフィルターを使用して、画像から埃や傷を除去することができます。フィルターの対象は主に100%表示でのみ認識可能な細かい埃と傷であることに注意してください。はっきり目に見える傷、大きな埃や毛などは除去できません。こうした欠陥は手で修正する必要があります。

プレビュー

詳細ウィンドウを使うと使用する設定をプレビューできます。**アンシャープマスク**フィルタを使用する際は、画像内の異なる2箇所で鮮鋭化効果を比較できるよう、詳細プレビューウィンドウを少なくともふたつ使用することをお勧めします。その場合、一方は明るい領域または中間色領域で鮮明度が十分であるかどうかの確認に使い、他方はシャドウ領域で鮮明度が過剰になると生じるノイズの確認に使います。**詳細**ウィンドウの使用法に関する詳細は、107ページの「詳細ウィンドウ」を参照してください。

テクスチャーウィンドウの使用

テクスチャーウィンドウを開くには、ショートカットキー**cmd-4**を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの**補正**セクションにある**テクスチャー**ボタンをクリックするか、ウィンドウメニューから**テクスチャー**を選択します。

フィルターの設定パラメータのいずれかにアクセスするには、左側の適切な三角マークをクリックします。

アンシャープマスクフィルタ

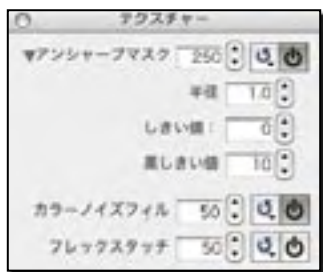
フィルタの設定を変更するには、適切なフィールドをクリックし、キー入力か上下矢印ボタンで値を編集します。この制御は次の効果をもたらします。

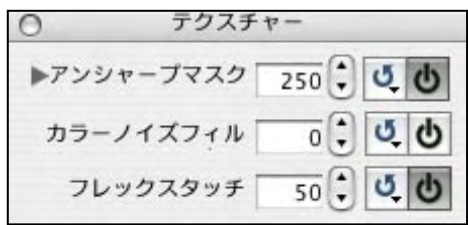
- **チェックボックスを適用:** アンシャープマスクフィルターをON/OFFします。このボックスをチェックすると、フィルターが最終画像およびプレビュー画像に（**詳細**ウィンドウの詳細画像にも）適用されます。フィルターを無効にするにはチェックをはずします。このボックスは、クリックしてチェックマークを切り替えるようになっています。

- **適用量:** 鮮鋭化効果の強度を制御します。この値が高いほど、各線は鮮鋭になります。画像に応じて80〜200の値をお勧めします。
- **黒しきい値:** それ未満でフィルタが無効になる明るさのレベルを設定します。これにより、画像におけるノイズおよび不要なテクスチャーの目立ちが抑制されます。この数値が高いほど、鮮鋭化効果の及ぶ範囲は狭まります。画像に応じて0〜20の値をお勧めします。
- **しきい値:** フィルム粒子、ノイズ、テクスチャーなど、低コントラストの画像領域がフィルタにより鮮鋭化されるのを防止します。これは、各ピクセルとその周囲のピクセルの明るさを比較することにより行われます。明るさの差が**しきい値**未満の場合、対象ピクセルに鮮鋭化は適用されません。画像の鮮鋭化後に粒子が目立つ場合は、この**しきい値**の設定を高くします。
- **半径:** アンシャープマスキングのアルゴリズムが鮮明なエッジを探す半径を設定します。この半径が大きいほど、鮮鋭化効果の及ぶ範囲は広がります。選択すべき設定は、画像の内容と使用する解像度に応じて異なります。一般には、高解像度の画像ほど半径を広げます。逆に、低解像度の画像では半径を狭めます。

各色チャネルには異なる量の鮮鋭化を適用することもできます。この制御は**セットアップ**ウィンドウの**USM**タブで行います。設定方法は、42ページの「USM（アンシャープマスキング）タブ」を参照してください。

色ノイズフィルター設定

このフィルターはまず画像を（明るさ情報と色情報が分離されている）LAB色空間に変換し、次に色チャネルから粒子を除去します。処理が終了したら、画像を標準RGBデータに変換します。この処理は基本的に色チャネルの情報をぼんやりさせるものですが、鮮明度情報のほとんどが明るさチャネルに保存されているので、画像全体の鮮明度への影響は色ノイズに比べごく少なくなっています。

フィルターを適用するには、**テクスチャー**ウィンドウを開き、**色ノイズフィルター**フィールドを0から50の値に設定します。0に設定するとフィルターが無効になり、50に設定すると最大効果が得られます。最適な設定は画像により異なるので、試行錯誤で最適な設定をみつけてください。

FlexTouch フィルター

- **レベル:** フィルター効果の強度を制御します。レベル調整の最良の方法は、画像の埃のある部分および細かいディテールのある部分の詳細ビューを作成することです。その後実際の画像ディテールに影響が現れるまでレベルを増加してから少々低くします。

他の画像補正設定と同様、以下を使用して色ノイズフィルター設定を管理することができます。

フィルターを適用: このボタンを押すと (グレー)、フィルターがプレビューと最終画像に適用されます。押さないときは (白)、フィルター設定は保持されますが画像には適用されません。

リセット/プリセット: ここをクリックすると、ロードされたセットアップまたはプリセットからの設定にリセットします。クリックして押したままにすると、メニューが開き、プリセットの選択、保存、削除ができます。このメニューの使用方法についての詳細は、97ページの「プリセットの使い方」を参照してください。

詳細ウィンドウ

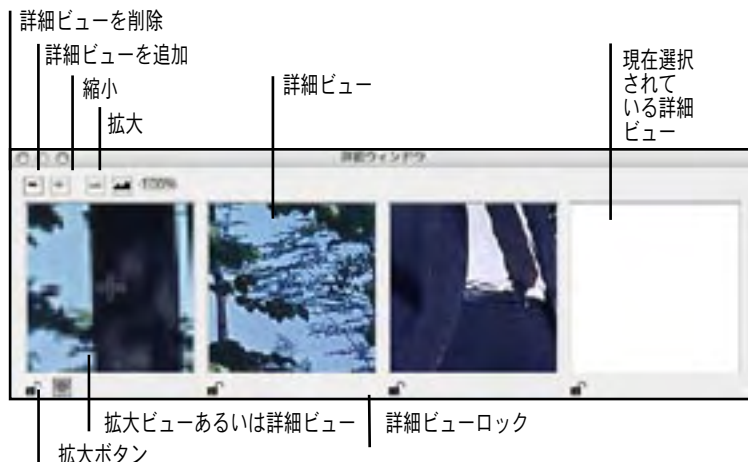
はじめに

詳細ウィンドウでは、プレビュー画像の詳細表示を（100
400%で）4つまで行えます。

詳細表示は、特に種々の補正ツールで行った補正の効果をプレビュー画像の異なる領域で確認したい場合に役立ちます。

左側のビューは、詳細ビューまたは拡大ビューとして使え、これにより画像の特定ピクセルについて色値を読み取ることができます。

詳細ウィンドウの使用

詳細ウィンドウを開くには、ショートカットキー**cmd-5**を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの**拡大表示**セクションにある**詳細**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューから詳細を選択します。

「-」ボタンと「+」ボタンは詳細ビューの追加または削除 (ビューは右から左へと順に削除されていきます) に使い、**拡大**ボタンと**縮小**ボタンは拡大レベルの選択に使います。

詳細ビューを作成するには、ビューフレーム内をクリックしてアクティブにしてから、プレビュー画像へカーソルを移動します。 カーソルをプレビュー画像上に移動した時点で、カーソル周辺領域の詳細ビューが低解像度で表示されることに注意してください。プレビュー画像内で詳細ビューに適した位置を見つけたら、そこで一度クリックします。 これにより、その画像部分の詳細表示が現在選択されている詳細ビューに作成されます。異なる設定間の比較を行うには、設定変更によるビューの更新を防ぐ**詳細ビューロック**アイコンをクリックして、個々のビューをロックできます。

左側のビューを拡大ビューとして使うには、ビュー下の**拡大**ボタンをクリックします。拡大表示される画像は、マウスポインタ周辺領域のものです。選択されているピクセルは、拡大ビュー中央に表示される十字型ポインタの十字交差点に当たるピクセルです。

バッチスキャン

はじめに

FlexColorの**バッチスキャン**機能で以下を行うことができます。

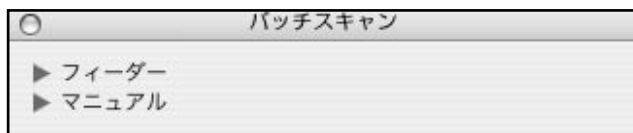
- 単一のオリジナルホルダーにある元画像（複数可）のスキャンを異なる条件で複数回行います。バッチ内の各スキャンは、解像度、切り取り、色空間、鮮鋭化、階調範囲、色補正、グレーデーション、セットアップタブなど、FlexColorウィンドウのすべてでまったく異なる設定を持つことができます。
- 最大10個の異なる元画像から3fファイルを一回の操作で作成します。各画像はオプションのフィーダーユニット内の異なるオリジナルホルダーに保存されています。

***バッチスキャン**機能はフィーダーからの複数の画像をスキャンするときに特に役立ちます。*
*単一のオリジナルホルダーにある元画像（複数可）から複数の異なる画像を作成したい場合、メインFlexColorウィンドウから**3fスキャン**機能を使用して3fファイルを作成することをお勧めします。3fファイルから個々の切り取りや設定を施したファイルをいくつでも保存できます。*

バッチスキャンウィンドウを開くには、ショートカットキーcmd-6を押すか、メイン**FlexColor**ウィンドウの補正セクションにある**バッチスキャン**ボタンをクリックするか、ウィンドウメニューから**バッチスキャン**を選択します。

バッチスキャンの設定

同一フレームから複数のスキャン

1. 元画像のプレビュースキャンを行います。
2. メイン**FlexColor**ウィンドウの上部にある**バッチスキャン**ボタンをクリックするか、**ウィンドウ**メニューから**バッチスキャン**を選択します。**バッチスキャン**ウィンドウが表示されます。

手動パラメータにアクセスするには、左側の三角マークをクリックします。

3. 切り取り範囲を定義し、メイン**FlexColor**ウィンドウの**サイズ**、および**セットアップ**ウィンドウと**補正**ウィンドウのすべてを使ってスキャン設定をします。
4. **バッチスキャン**ウィンドウの**追加**ボタンをクリックします。標準ファイル保存ウィンドウが表示されます。このウィンドウでスキャンを保存するフォルダーとファイル名を選択します。スキャンはまだ行われていませんが、スキャン名が**バッチスキャン**ウィンドウのリストに追加されます。
5. 3と4を繰り返し、全スキャンを定義します。

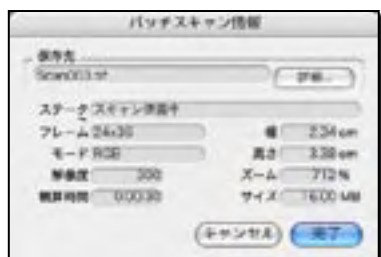
6. 既に定義されたスキャンを変更するには、**バッチスキャン**ウィンドウのスキャン名をクリックし、他の**FlexColor**ウィンドウで変更を入力します。**バッチスキャン**ウィンドウに戻り、**更新**ボタンをクリックして変更を保存します。

   バッチセットからスキャンを除去するには、スキャン名をクリックしてから**削除**をクリックします。

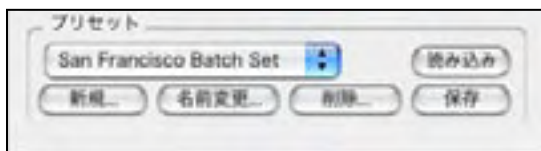
   プレビューボックスがチェックされている場合、プレビューはスキャンごとに更新されます（約1秒）。このボックスがチェックされていない場合は、メイン**FlexColor**ウィンドウ内のプレビュー画像は、**バッチスキャン**ウィンドウで新規スキャンをクリックしても更新されません。これで作業速度が上がります。

7. スキャンの定義が終了したら、スキャンボタンをクリックします。**FlexColor**が定義されたスキャンをすべてスキャンし結果を保存します。

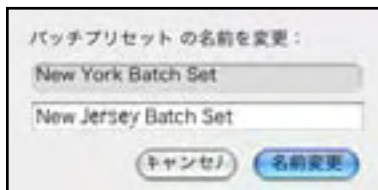
各スキャンの情報を見る

バッチスキャンリストのエントリをダブルクリックして、**バッチスキャン**ウィンドウにリストアップされているスキャンの情報をみることができます。選択されたエントリの**バッチスキャン情報**ウィンドウが開きます。

ウィンドウには以下の情報が表示されます。

- **保存先:** 選択されたスキャンに付けられた名前。
- **指定ボタン:** ここをクリックして**宛先**名とフォルダーを変更します。
- **ステータス:** スキャンのステータスを示します。バッチスキャンがうまくいかないときは、ここをみてください。
- **フレーム:** 使用されているオリジナルホルダー。
- **モード:** スキャンが保存される色モード（例：CMYKまたはRGB）。
- **PPI:** スキャンの出力解像度。
- **概算時間:** 選択されたスキャンにかかる推定時間。
- **幅、高さ、ズーム:** 最終スキャンの出力サイズと元画像と比較した拡大縮小のレベル。
- **サイズ:** 最終スキャンのファイルサイズ。

バッチプリセットの使い方

バッチプリセットを保存したいときは、**バッチスキャン**ウィンドウの**新規**ボタンをクリックします。すると、**新規のバッチプリセットを作成**ウィンドウが表示されます。

名前をキー入力して**作成**をクリックします。プリセット名が**プリセット**のポップアップメニューに表示されます。複数のバッチプリセットが保存してある場合は、ポップアップメニューを使って切り替えることができます。

バッチプリセットの名前を変更する場合は、プリセットをポップアップメニューから選び**名前変更**ボタンをクリックします。**バッチプリセットの名前を変更**ウィンドウが表示されます。名前をキー入力して**名前変更**をクリックします。

バッチプリセットを削除する場合は、プリセットをポップアップメニューから選び**削除**ボタンをクリックします。

FlexColor をフィーダーと使用する

はじめに

Flextightのスキャナーモデルにはバッチフィーダーを含むもの、あるいはバッチフィーダーの取付けができるものがあります。これにより、実際にスキャナーの横で進行状況をモニターする必要なく、一連の画像を設定し、いちどにスキャンすることができます。現時点で、以下のバッチフィーダーオプションがあります。

- **Flextight バッチフィーダー:** ほぼあらゆる透過サイズに対応する、柔軟性のある標準オリジナルホルダーをいくつか収納します。Flextight 848 と 949 スキャナーの付属オプションです。
- **マウント型スライドフィーダー:** 最高50枚のマウント型スライドを保持します。Flextight 949 スキャナーの付属オプションです。
- **Flextight RF:** ロールフィルムのスキャン専用のスキャナー。ロールフィルムの各コマが別々のファイルに保存されます。

FlexColorは上記の各バッチフィーダーオプションに対応しています。

フィーダーの取付と保守

スキャナーに取付け、取外しできる型のバッチフィーダーは、取付と保守に、FlexColorの**メンテナンス> フィーダー**メニューコマンドを使用します。このコマンドが**フィーダー**ウィンドウを開きます。

ここでは以下の制御ができます。

- **ドラムポジション:** このポップアップメニューを使ってドラムの位置を設定します。フィーダーによっては、これをオリジナルホルダーのロード/アンロードやスキャナーのスキャン設定に使用することがあります。
- **フィーダーポジション:** このポップアップメニューを使ってフィーダーマガジンの位置を調整します。フィーダーのリセット、移動や保管の準備に使用することもできます。
- **トレイの取外し:** 通常使用することはありませんが、オリジナルホルダーをスキャナーから出し入れできないとき（例：オリジナルが正しく取付けられていない）、この機能を使ってフィーダーを上下に数段移動することができます。フィーダーが次に新規オリジナルをロードするために移動するときに完全にリセットされます。
- **マウントする:** フィーダーにはすべてソフトでサポートされた特有の取付方法が必要です。ここをクリックして、スキャナーがフィーダーを承認するよう準備し、それからフィーダーマニュアルと画面上の説明に従ってください。
- **アンマウントする:** このコマンドでスキャナーからフィーダーを安全に取外すことができます。ここをクリックして、スキャナーがフィーダーを解除するよう準備し、それからフィーダーマニュアルと画面上の説明に従ってください。

フィーダーモデルに特有の組立、取付、保守の詳細については、フィーダーの取扱説明書を参照してください。

フィーダーを使用するスキャン

バッチフィーダーを使うときは、通常バッチスキャン機能あるいは3f ワークフローを使用しています。Flextight RFスキャナーを使用するときは、必ず3fにスキャンする必要があります。各方法の詳細については、以下を参照してください。

- 3f ワークフローの詳細は117ページの「3f の使い方」。
- TIFFワークフローに標準バッチスキャンを使用する詳細については109ページの「バッチスキャン」。

バッチフィーダーを画像ライブラリの構築に使用する場合は、スキャンが簡単にでき、柔軟性が最大化する 3f ワークフローをお勧めします。比較的小さいバッチを当面一回だけスキャンする場合は、3f あるいは標準バッチ-TIFF機能を使用することができます。

3f の使い方

3f ファイル形式とワークフローの概要

ほとんどのDTPアプリケーションや印刷デバイスは8ビット画像を処理しますが、Flextightスキャナーは16ビット画像をキャプチャします。FlexColorは最終スキャンを8ビットTIFFあるいは8ビットJPEGファイルとして保存しますが、様々な補正機能（特にヒストグラム、グレーデーション、色補正）に作業の余裕を与え、最適化された8ビット画像を保存するために、スキャンは16ビットで開始されます。

標準スキャンワークフローは、元画像のロード、プレビュー取得、サイズと最適化設定の作成、標準8ビットTIFFまたはJPEGファイルで保存となっています。これが明確な単一目的のために画像をスキャンする場合に最良の方法です。しかしながら、この方法では最終画像を生成するまでに、オリジナルのスキャンデータが画像最適化とサイズ調整の過程で廃棄されることになります。これは単一目的の画像では問題にはなりませんが、画像を後日他の目的で再度使用する場合は、新規アプリケーションで十分な画質を保証するために、その画像を再スキャンする必要があります。

Hasselbladのユニークな3f画像ファイル形式では、完全な解像度をもつ16ビット画像をライブラリに保存し、必要に応じて様々な仕事にエクスポートできるような、柔軟性と効率の高いワークフローを実行することができます。スキャン実行中に設定作成を心配する必要はありません。各ファイルに利用可能な全スキャンデータを保存するだけです。後日特定の仕事のために画像を使用する際、FlexColorを使って3fファイルを開き、サイズと処理設定を適用し、その結果を標準8ビットTIFFあるいはJPEGファイルにエクスポートすることができます。オリジナルの3f画像はエクスポート設定に影響されないので、いつでも3f画像に戻って、新規エクスポート設定を作成し、最適化された品質の最終画像を生成することができます。元画像を最初からスキャンし、最適化した場合と同様の結果が生じます。

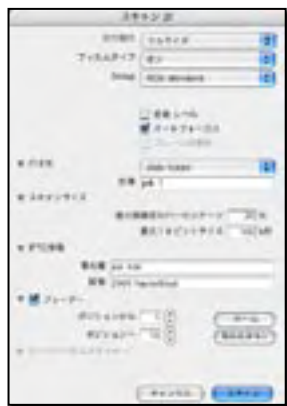
未加工画像データに加え、3fファイル形式は実行された各エクスポートの記録を保存するので、過去のエクスポートの再エクスポートがいつでもできます。また数多くのタイプのメタデータ

(名前、キーワード、版権詳細など) を保持するので、3f画像はデータベースの索引付け、検索可能な画像ライブラリの作成に理想的です。3fは基本的に改良TIFF形式なので、TIFFファイルの読込みのできる画像データベースアプリケーションはどれでも、3fファイルに保存されたメタデータに索引をつけることができます。

欠点はファイルサイズで、3fファイルのピクセルごとのデータ量は2倍で、しかも通常全解像度スキャンを使用します。そのため特定の印刷のために、スキャン、サイズ調整、最適化を行い保存されたファイルに比べ、ファイルサイズは数倍以上になっています。3f ワークフローは、そのため、多様な設定下で使用する画像ライブラリに関心のある印刷業者や写真専門店にもっとも有用です。大型データ記憶容量が必要です。

Flextightの全ユーザーが3fにスキャンできますが、バッチフィーダーあるいはロールフィルムローダー付きのFlextightスキャナーの場合は、バッチ全体をスキャンし、保存することができるので、3fワークフローが最も役立ちます。3fファイルを共有ネットワーク上に保存すると、ネット上のFlexColorのユーザーは、いつでも必要なときにスキャナーを実際に使用せずに、画像のロード、最適化、エクスポートを行うことができます。

3f へのスキャン

1. メインFlexColorウィンドウの3fボタンを押します。

2. **切り取り**ポップアップメニューを以下のいずれかに設定します。
   - **自動検出**: FlexColorは、未露出ピクセルをスキャンから排除するために、画像をできるだけきっちり切り取ります 。
   - **現在適用されている切り取り**: FlexColorはメインFlexColorウィンドウでプレビューに定義されている切り取り範囲を使用します。バッチスキャンをするときは、スキャンの対象となる元画像がすべて同一ファイル形式（例：35 mm）の場合、このオプションのみを選択してください。
   - **フルサイズ**: FlexColorは現在のオリジナルホルダーまたはフィーダーで利用できるフルサイズをキャプチャします。この設定ではスキャン中に特別な処理が不必要なので、スキャン時間が最も速くなります。
3. **フィルムタイプ**ポップアップメニューを以下のいずれかに設定します。
   - **自動検出**: FlexColorはスキャン中に画像の色を分析してフィルムタイプを決定します。色々な画像が混在するバッチをスキャンするときに役立ちます。
   - **ポジ**: カラーポジ画像、白黒ポジ画像用。
   - **カラーネガ**: カラーポジ画像用。
   - **白黒ネガ**: 白黒ネガ画像用。
4. スキャンに使いたいセットアップと合うように、**セットアップ**メニューを設定します。**フィルムタイプ**を**自動検出**に設定した場合は、ポジ用とネガ用のふたつのセットアップメニューが表示されます。**フィルムタイプ**を特定の設定にした場合は、セットアップメニューはひとつだけ表示されます。**セットアップ**メニューにある選択肢は、各フィルムタイプに対するデフォルトセットアップとカスタムセットアップを含みます。
5. 環境設定に応じて、以下のチェックボックスをチェックするか、またはチェックをはずしてください。
   - **自動レベル**: FlexColorは、内部アルゴリズムに応じて、個々のスキャンにハイライト点とシャドウ点を設定します。上記設定は3fファイルのデフォルトセットアップの一部になりますが、未加工データは影響を受けません。エクスポート中にいつでも変更できます。
   - **自動フォーカス**: FlexColorは各スキャンの前にピントを再調整します。自動フォーカスではスキャン時間が数秒長くなりますが、使用することをお勧めします。マウント型の

スライドをスキャンするときは、スライドの取付部分の厚さが一定でないので、この設定を必ず使用してください。Flextightオリジナルホルダーでスキャンするときは、このボックスをクリアしても構いません。その場合スキャナーがその補正フォーカス設定を使用します。

- **フレームの感知：**Flextightオリジナルホルダーのほとんどが、ホルダー（6x6、6x7、24x36 など）で使われているオリジナル形式を認識するバーコードを持っています。ただし全Flextightスキャナーがコードを読めるよう設計されているわけではありません。スキャナーがフレーム認識に対応する場合は、このチェックボックスが使えます。ボックスをチェックして、スキャナーが各スキャンの前にコードを読み、必要に応じて新規形式に自己再調整できるようにします。フレーム認識に対応しないスキャナーがコンピュータに取付けられている場合は、この設定は無効になります。このボックスがチェックされていない、あるいは無効のときは、バーコードの内容にかかわらず、スキャナーは選択された設定で指定されたフレーム形式を使ってスキャンします。バッチフィーダーを使って形式の異なる複数の元画像をスキャンするときは、オリジナルホルダーがすべてバーコードを持ち、このオプションが有効な状態にあることを必ず確認してください。フレーム認識を使用しないと、スキャナーが各スキャンの前に止まってバーコードを読む必要がないので、スキャンがわずかに速くなります。

6. **行き先**設定は3fファイルを保存するフォルダを制御します。
   - **行き先**ポップアップメニューは現在の行き先フォルダ名を表示します。フォルダ名を変更するには、メニューをクリックして**行き先を選択**を選びます。ファイルブラウザウィンドウが開き新しい行き先フォルダを選択することができます。
   - **ジョブ**設定は、Flextight RFスキャナーまたは（標準バッチフィーダーではない）マウント型スライドフィーダー対応のスキャナーを使用しているときのみ、有効です。各スキャナーシステムは通常多数の画像を一度にバッチスキャンするために使われます。そのため、この種のスキャナーで新規3fスキャンを始めるたびに、FlexColorは選択された**行き先**フォルダの下に新しいサブフォルダを作成します。新しいサブフォルダ名は、**ジョブ**フィールドに入力されたテキストプラス独自の整数となります（例：Job 001、Job 002、 Job

003など）。バッチからのスキャンはすべて新しいサブフォルダに保存され、**サムネイル**ウィンドウがこのサブフォルダの内容を表示します。次に3fスキャンを行うとき、別のフォルダが作成され、**サムネイル**ウィンドウがこの新しいフォルダの内容を表示するようになります。その他のスキャナー構成には、サブフォルダは新規に作成されず、**サムネイル**ウィンドウは上記**行き先**設定で入力した変更に合わせた更新は行いません。スキャナー構成を変更する場合(例：マウント型スライドフィーダーを取外す、別のスキャナーを取付けるなど)、新しいスキャンは、**行き先**設定が変更されるまで、最後に使用されたジョブサブフォルダに保存されます。

7. IPTC情報設定を指定して、各スキャンとともに保存される基本メタデータを制御します。例えば、各画像に対してスキャナーのオペレータや版権詳細を特定できます。設定の一部が見えないときは、**IPTC**情報見出しの横にある三角マークをクリックしてください。以下を設定してください。
   - **署名欄**: どんな値にも設定できますが、スキャナーのオペレータを確認するためによく使われます。デフォルトは現在ログインしているユーザー名です。
   - **版権**: 版権の詳細を入力します。通常、画像の所有者（例：写真撮影者）の名前、画像作成日が含まれます。
8. 標準フィーダーあるいはマウント型スライドフィーダーの場合は、以下のオプションも利用できます（オプションが見えない場合は、**フィーダー**見出しの横にある三角マークをクリックしてください）。
   - **開始番号:** バッチに入れる最初のスライドの番号を入力します。
   - **終了番号:** バッチに入れる最後のスライドの番号を入力します。
   - **ホーム:** ここをクリックすると、フィーダーマガジンがホーム位置に移動します。ホームは第1スライドがスキャンされる位置で、フィーダーの保存や移動の際に使います。
   - **読込まない:** ここをクリックすると、オリジナルホルダーがスキャナーから押出され、取外しが可能になります（通常、フィーダーアセンブリ全体を取外す際の第一段階）。

9. (ロールフィルムのスキャン用に) Flextight RFスキャナーを使用している場合は、以下のオプションも利用できます (オプションが見えない場合は、ロールフィルムの横にある三角マークをクリックしてください)。

   後方送り: ここをクリックするとフィルムが後方に巻かれます。停止をクリックするか、再度クリックするまで操作は続きます。

   停止: フィルム巻き操作を停止します。

   前方送り: ここをクリックするとフィルムが前方に巻かれます。停止をクリックするか、再度クリックするまで操作は続きます。

   通常、上記機能はフィルムを完全に巻いてスキャナーから取出すときに使われます。その場合は、前方の方がフィルムがらくに転送されるので、前方送りが常に最良の方法です。

10. 上記で説明したすべての3f設定をスキャナーに適用できるように指定したら、スキャンをクリックして特定の画像を3fファイルにスキャンします。

3f 画像の処理

実際にライブラリから3f画像を使用する場合、その画像をFlexColorにロードし、適切なサイズと最適化設定を行い、8ビットTIFFまたはJPEGファイルに画像をエクスポートする必要があります。

FlexColor**サムネイル**ウィンドウを使用して、3f画像のフォルダを開き、「仮想ライトテーブル」に表示します。ここで以下を実行することができます。各画像とそのエクスポート履歴を表示する、エクスポート設定とその効果をみるために画像をメインFlexColorウィンドウにロードする、承認のための画像を作成する、単一または複数のショットに関連するセットアップを変更するなど。特定の3fファイルからエクスポートを行うたびに、設定がファイルの履歴に追加されますが、元画像データには変化はありません。エクスポートせずに各ファイルの履歴に新規セットアップを追加し、スキャナーとは別の場所でバッチ処理を施してTIFFまたはJPEGファイルを一度に作成することもできます。こうした設定の詳細については、65ページの「**サムネイル**ウィンドウ」を参照してください。

実際に3f画像を使用する際は、以下を行います。

1. サムネイルウィンドウを使用して、3f画像の保存してあるフォルダを表示します。
2. 対象となる画像をダブルクリックしてメイン**FlexColor**ウィンドウ内に開きます。するとウィンドウの表題に、サムネイルと開いたファイル名が示されます（スキャン中はFlexColorと表示）。
3. スキャンプレビューにするように、補正設定（ヒストグラム、テクスチャー、グレーデーションなど）を行います。
4. 画像が印刷される方法に適合する正しいアウトプットプロファイルを必ず選択してください。プロファイルの選択は、**セットアップ**ウィンドウの**ColorSync**タブあるいは**ICM**タブを使用して行います (詳細は47ページの「ColorSyncあるいはICMタブ」を参照)。
5. 以下を実行して、切り取りと出力サイズを指定します。
   - **PPI**ポップアップメニューを、必要とされる出力解像度（通常印刷は300、ウェブは72）に設定します。
   - 切り取り範囲を定義します。
   - 現在使用する画像の寸法に合わせて**幅**と**高さ**を設定します。

すると、拡大縮小値が指定された設定値に調整されます。3fファイルがロードされると、この値は全解像度ファイルからのサイズ変更を示します（スキャン中はスキャナー内の光学拡大縮小を表示）。拡大レベルは200%以上には設定できません。画像が鮮鋭性を欠き、プロの使用に不適当になります。

6. 以下のいずれかを実行してください。
   - **保存**をクリックして、画像をエクスポートし、3fファイル履歴に新規セットアップを追加します。
   - **サムネイル**ウィンドウに戻り、新規設定を3fファイル履歴に追加し画像の現行デフォルトにします（70ページの「セットアップや履歴の修正」も参照）。これで複数の画像を準備し、後で全部一度にバッチ処理することができます。

付録

キーボードショートカット

メインFlexColorウィンドウ

F9:	プレビュースキャンを行います。
Cmd または (コマンドキー+左右矢印キー):	それぞれ前の画像または次の画像を開きます。
スペースキー:	押したままにして、プレビューをドラッグします。
Cmd-0:	拡大表示してプレビュー画像全体をウィンドウの大きさに合わせます。
Cmd +:	拡大します。
Cmd –:	縮小します。
Alt-Cmd-0:	100%に拡大します。

サムネイルウィンドウ

Cmd-A:	ウィンドウ内のアイコンをすべて選択します。
Cmd-クリック:	複数の画像を選択します。
シフト-クリック:	一列に並んだ複数の画像を選択します。
Cmd-I:	現在選択している画像について情報ウィンドウを開きます。
a:	選択した画像の承認ステータスのオン/オフをトグルし（交互に切り替え）ます。承認された画像には、左下にチェックマークが表示されます。
del (削除キー):	現在選択している画像をハードディスクから削除します。削除を選択すると、確認のためのダイアログが表示されます。
Cmd-del:	確認手順を踏まずに、現在選択している画像をハードディスクから削除します。

情報ウィンドウ

F10:	一般情報とヒストリー（履歴）をトグルします。

ファイルメニュー

Cmd-N:	プレビュースキャンを行います。
Cmd-S:	最終スキャンを行います。
Cmd-W:	可能な場合、現在選択されているウィンドウを閉じます。
Cmd-U:	**セットアップ**ウィンドウを開きます。
Cmd-I:	**情報**ウィンドウを開きます。このウィンドウには、現在選択している画像に関する各種情報が含まれています。
Cmd-P:	**サムネイル**ウィンドウの内容を印刷します。ウィンドウ内で画像をクリックし、希望するビューが選択されていることを確認してください。

編集メニュー

Cmd-Z:	最も最近行った操作、例えばセットアップウィンドウで行った切り取り領域の修正または変更などを取り消します。また、複数回にわたる操作の取り消しも可能です。
Cmd-R:	**Cmd-Z**コマンドで取り消した操作を再度適用します。
Cmd-X:	テキストフィールド内のテキストを選択してからこのコマンドを選択すると、選択したテキストがフィールドから削除されシステム共通の仮想クリップボードに保存されます。
Cmd-C:	選択したテキストを削除することなくクリップボードに保存します。
Cmd-V:	クリップボードにあるテキストのコピーを挿入点に配置します。
Cmd-A:	挿入点が位置しているフィールドに含まれるすべてのテキストを選択します。

ウィンドウメニュー

Cmd-1:	**ヒストグラム**ウィンドウを開閉します。
Cmd-2:	**グラデーション**ウィンドウを開閉します。
Cmd-3:	**色補正**ウィンドウを開閉します。
Cmd-4:	**テクスチャー**ウィンドウを開閉します。
Cmd-5:	**詳細**ウィンドウを開閉します。
Cmd-6:	**バッチスキャン**ウィンドウを開閉します。
Cmd-8:	**サムネイル**ウィンドウを開閉します。
Cmd-9:	**色情報**ウィンドウを開閉します。

予防保守

Flextightスキャナーはすべて、スキャン回数25000回ごと、あるいは使用期間12ヶ月ごとのどちらか早い時期に、点検サービスの必要があります。フィーダー付きのスキャナーは、フィーダーが全スキャン用に取付けられている場合、スキャン実行15000回で点検サービスをお勧めします。プレビューもスキャンとして数えられることに留意してください。

Flextightの比較的新しいスキャナーにはカウンタが組込まれており、スキャン回数をモニターすることができます。スキャン回数のモニターに関する詳細はマニュアルを参照してください。

点検サービスや保守サービスの欠損が理由で生じる故障や不良は、工場出荷時の保証の対象にはなりません。